

2014 年度(平成 26 年度)

学校法人東海大学事業報告書・財務報告書

(私立学校法第 47 条に関する書類)

学校法人東海大学

1. 財産目録
2. 貸借対照表
3. 収支計算書
4. 決算の概要
5. 事業報告書
6. 監事による監査報告書

1. 財 産 目 録

財 産 目 録

(2015年3月31日現在)

I. 資 産	総 額		337,180,674,355円
	内 1 基 本 財 産		208,727,164,499円
	2 運 用 財 産		128,453,509,856円
	[3 収 益 事 業 用 財 産		724,810,707円]
II. 負 債	総 額		74,927,555,946円
	[収 益 事 業 用 負 債		131,274,967円]
III. 正 味 財 産			262,253,118,409円

(注記 当財産目録の資産の評価は取得価格基準による。)

財 産 目 録 内 訳

[1] 資 産

1 基本財産	数 量	価 額(円)
(1) 土 地	5,484,526.35m ²	59,102,569,544
(2) 建 物	1,078,703.45m ²	106,734,702,882
(3) 図 書	3,267,570冊	16,755,248,191
(4) 教 具 ・ 校 具 ・ 備 品	322,769点	13,688,311,041
(5) 構 築 物		10,879,493,404
(6) 車 両	163台	150,579,317
(7) 船 舶	1隻	13,920,361
(8) 舟 艇	6隻	15,875,312
(9) ソ フ ト ウ ェ ア		83,543,605
(10) 建 設 仮 勘 定	土 地 建 物	2,317,602 1,300,603,240
	合 計	208,727,164,499 円

2 運用財産	数 量	価 額(円)
(1) 預 金 ・ 現 金		48,501,626,190
(2) 積 立 金		38,694,109,961
(3) 有 価 証 券	916,589株	1,616,394,437
(4) 出 資 金		368,388,529
(5) 不 動 産	土地1,701,381.14m ² 他	15,794,730,271
(6) 未 収 入 金		13,901,715,350
(7) そ の 他		4,052,496,975
(8) 建 設 仮 勘 定	土 地 他	5,524,048,143
	合 計	128,453,509,856 円

3 収益事業財産		724,810,707 円
----------	--	---------------

[2] 負 債

1 固定負債	数 量	金 額(円)
(イ) 長 期 借 入 金		24,866,280,000
(ロ) 長 期 未 払 金		1,499,577,783
(ハ) 退 職 給 与 引 当 金		17,175,767,691
(ニ) そ の 他		77,298,775
	合 計	43,618,924,249 円

2 流動負債	数 量	金 額(円)
(イ) 短 期 借 入 金		3,894,770,000
(ロ) 前 受 金		8,608,056,500
(ハ) 未 払 金		13,042,728,640
(ニ) そ の 他		5,763,076,557
	合 計	31,308,631,697 円

3 収益事業負債		131,274,967 円
----------	--	---------------

[3] 借 用 財 産

		面 積(m ²)
(1) 土 地		439,796.50
(2) 建 物		1,363.09
		441,159.59 m ²

2. 貸借対照表

貸 借 対 照 表

2015年3月31日

資 産 の 部

(単位: 円)

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	273,839,287,807	272,358,190,928	1,481,096,879
有 形 固 定 資 産	229,962,399,308	230,719,955,048	△ 757,555,740
土 地	70,152,143,555	70,221,352,229	△ 69,208,674
建 物	111,276,925,601	115,227,526,537	△ 3,950,600,936
構 築 物	11,082,426,945	11,822,727,291	△ 740,300,346
教 育 研 究 用 機 器 備 品	13,130,289,186	13,289,261,754	△ 158,972,568
図 書	16,755,248,191	16,909,893,147	△ 154,644,956
建 設 仮 勘 定 資 産	6,826,968,985	2,438,810,773	4,388,158,212
そ の 他 有 形 固 定 資 産	738,396,845	810,383,317	△ 71,986,472
そ の 他 の 固 定 資 産	43,876,888,499	41,638,235,880	2,238,652,619
諸 引 当 資 産	27,432,868,022	25,860,908,587	1,571,959,435
ソ フ ト ウ ェ ア	83,543,605	160,556,608	△ 77,013,003
松 前 重 義 記 念 基 金	11,261,241,939	11,063,082,111	198,159,828
そ の 他 固 定 資 産	5,099,234,933	4,553,688,574	545,546,359
流 動 資 産	63,341,386,548	65,772,195,916	△ 2,430,809,368
現 金 預 金	48,501,626,190	50,031,879,414	△ 1,530,253,224
未 収 入 金	13,901,715,350	14,795,898,477	△ 894,183,127
そ の 他 流 動 資 産	938,045,008	944,418,025	△ 6,373,017
資 産 の 部 合 計	337,180,674,355	338,130,386,844	△ 949,712,489

負 債 の 部

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 負 債	43,618,924,249	45,983,034,666	△ 2,364,110,417
長 期 借 入 金	24,866,280,000	28,757,050,000	△ 3,890,770,000
長 期 未 払 金	1,499,577,783	1,619,917,878	△ 120,340,095
退 職 給 与 引 当 金	17,175,767,691	15,528,768,013	1,646,999,678
そ の 他 固 定 負 債	77,298,775	77,298,775	0
流 動 負 債	31,308,631,697	31,865,456,267	△ 556,824,570
短 期 借 入 金	3,894,770,000	4,059,630,000	△ 164,860,000
未 払 金	13,042,728,640	13,436,017,431	△ 393,288,791
前 受 金	8,608,056,500	8,636,736,950	△ 28,680,450
そ の 他 流 動 負 債	5,763,076,557	5,733,071,886	30,004,671
負 債 の 部 合 計	74,927,555,946	77,848,490,933	△ 2,920,934,987

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第 1 号 基 本 金	435,435,654,571	439,817,955,784	△ 4,382,301,213
第 2 号 基 本 金	4,433,960,760	0	4,433,960,760
第 4 号 基 本 金	9,103,000,000	9,103,000,000	0
基 本 金 の 部 合 計	448,972,615,331	448,920,955,784	51,659,547

消 費 収 支 差 額 の 部

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	186,719,496,922	188,639,059,873	△ 1,919,562,951
消 費 収 支 差 額 の 部 合 計	△ 186,719,496,922	△ 188,639,059,873	1,919,562,951
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
負 債 の 部 ・ 基 本 金 の 部 及 び 消 費 収 支 差 額 の 部 合 計	337,180,674,355	338,130,386,844	△ 949,712,489

※ 貸借対照表の概要については「4. 決算の概要」の中に記載しております。

3. 収支計算書

2014年度資金収支計算書

自 2014年4月 1日

至 2015年3月31日

収 入 の 部

学校法人東海大学

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
学生生徒等納付金収入	50,789,330,000	50,763,893,527	25,436,473
授 業 料 収 入	26,661,070,000	26,663,201,600	△ 2,131,600
入 学 金 収 入	3,029,300,000	3,029,943,750	△ 643,750
教 育 運 営 費 収 入	7,444,750,000	7,440,784,444	3,965,556
教 育 充 実 費 収 入	973,690,000	973,690,000	0
施 設 設 備 資 金 収 入	13,056,230,000	13,055,384,900	845,100
そ の 他 納 付 金 収 入	39,240,000	39,289,800	△ 49,800
授 業 料 等 軽 減 額	△ 414,950,000	△ 438,400,967	23,450,967
手 数 料 収 入	1,326,830,000	1,282,902,237	43,927,763
入 学 検 定 料 収 入	1,285,410,000	1,242,680,500	42,729,500
試 験 料 収 入	2,650,000	2,920,000	△ 270,000
証 明 手 数 料 そ の 他 収 入	38,770,000	37,301,737	1,468,263
寄 付 金 収 入	1,516,470,000	1,582,568,255	△ 66,098,255
特 別 寄 付 金 収 入	709,610,000	728,474,845	△ 18,864,845
一 般 寄 付 金 収 入	806,860,000	854,093,410	△ 47,233,410
補 助 金 収 入	13,120,220,000	12,636,380,538	483,839,462
国 庫 補 助 金 収 入	7,801,980,000	7,204,247,843	597,732,157
地 方 公 共 団 体 補 助 金 収 入	5,316,240,000	5,430,132,695	△ 113,892,695
学 術 研 究 振 興 資 金 収 入	2,000,000	2,000,000	0
資 産 運 用 収 入	1,581,000,000	1,612,094,525	△ 31,094,525
受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	628,460,000	639,894,805	△ 11,434,805
施 設 設 備 利 用 料 収 入	952,540,000	972,199,720	△ 19,659,720
資 産 売 却 収 入	91,660,000	148,855,172	△ 57,195,172
事 業 収 入	65,464,460,000	66,252,790,768	△ 788,330,768
補 助 活 動 収 入	464,320,000	478,610,562	△ 14,290,562
付 属 事 業 収 入	266,110,000	273,508,055	△ 7,398,055
受 託 事 業 収 入	1,377,400,000	1,560,636,746	△ 183,236,746
医 療 収 入	63,356,630,000	63,940,035,405	△ 583,405,405
雑 収 入	4,048,410,000	4,488,600,799	△ 440,190,799
私 立 大 学 退 職 金 財 団 交 付 金 収 入	2,534,510,000	2,656,226,950	△ 121,716,950
私 学 退 職 金 団 体 交 付 金 収 入	406,960,000	425,307,455	△ 18,347,455
雑 収 入	1,106,940,000	1,407,066,394	△ 300,126,394
借 入 金 等 収 入	8,004,000,000	8,004,000,000	0
前 受 金 収 入	8,561,820,000	8,608,056,500	△ 46,236,500
授 業 料 前 受 金 収 入	2,888,160,000	2,876,673,500	11,486,500
入 学 金 前 受 金 収 入	2,916,570,000	2,994,612,500	△ 78,042,500
教 育 運 営 費 前 受 金 収 入	826,320,000	830,613,500	△ 4,293,500
教 育 充 実 費 前 受 金 収 入	34,400,000	22,060,000	12,340,000
施 設 設 備 資 金 前 受 金 収 入	1,896,370,000	1,884,097,000	12,273,000
そ の 他 の 収 入	20,105,750,000	20,961,179,730	△ 855,429,730
敷 金 保 証 金 回 収 収 入	5,140,000	5,146,000	△ 6,000
退 職 給 与 引 当 資 産 か ら の 繰 入 金 収 入	112,170,000	492,172,625	△ 380,002,625
特 定 引 当 資 産 か ら の 繰 入 金 収 入	4,500,000,000	4,500,000,000	0
前 期 末 未 収 入 金 収 入	15,133,780,000	15,138,960,593	△ 5,180,593
貸 付 金 回 収 収 入	151,340,000	185,621,456	△ 34,281,456
そ の 他	203,320,000	639,279,056	△ 435,959,056
資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 22,906,540,000	△ 22,948,354,968	41,814,968
期 末 未 収 入 金	△ 14,269,770,000	△ 14,311,618,018	41,848,018
前 期 末 前 受 金	△ 8,636,770,000	△ 8,636,736,950	△ 33,050
前 年 度 繰 越 支 払 資 金	50,031,879,414	50,031,879,414	0
収 入 の 部 合 計	201,735,289,414	203,424,846,497	△ 1,689,557,083

※ 資金収支計算書の概要については「4. 決算の概要」の中に記載しております。

※ () 内は収入の部合計に対する構成割合。

2014年度資金収支計算書

自 2014年4月 1日

至 2015年3月31日

支 出 の 部

学校法人東海大学

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
人 件 費 支 出	65,846,880,000 (32.6%)	65,998,799,564 (32.4%)	△ 151,919,564
教員人件費支出	30,241,740,000	30,251,904,045	△ 10,164,045
職員人件費支出	32,064,750,000	32,078,554,351	△ 13,804,351
役員報酬支出	101,050,000	101,047,796	2,204
退職金支出	3,439,340,000	3,567,293,372	△ 127,953,372
教育研究経費支出	48,644,010,000 (24.1%)	49,188,288,999 (24.2%)	△ 544,278,999
消耗品費支出	10,199,850,000	10,371,217,741	△ 171,367,741
光熱水費支出	3,556,960,000	3,489,000,127	67,959,873
旅費交通費支出	906,490,000	890,454,025	16,035,975
奨学費支出	1,250,800,000	1,259,385,396	△ 8,585,396
印刷製本費支出	521,530,000	506,989,399	14,540,601
通信運搬費支出	281,810,000	277,542,466	4,267,534
修繕費支出	2,372,300,000	2,235,571,275	136,728,725
賃借料支出	954,890,000	943,894,265	10,995,735
委託費支出	10,831,690,000	10,851,886,791	△ 20,196,791
医療経費	16,477,130,000	17,149,700,973	△ 672,570,973
その他	1,290,560,000	1,212,646,541	77,913,459
管理経費支出	7,695,530,000 (3.8%)	7,575,489,771 (3.7%)	120,040,229
消耗品費支出	288,870,000	311,980,297	△ 23,110,297
光熱水費支出	494,050,000	514,237,071	△ 20,187,071
旅費交通費支出	183,310,000	164,283,774	19,026,226
印刷製本費支出	416,470,000	413,363,052	3,106,948
広告費支出	436,140,000	432,030,606	4,109,394
通信運搬費支出	98,300,000	84,136,577	14,163,423
修繕費支出	236,710,000	215,146,304	21,563,696
賃借料支出	880,520,000	883,496,298	△ 2,976,298
委託費支出	3,145,960,000	3,077,915,843	68,044,157
公租公課支出	536,100,000	529,046,442	7,053,558
その他	979,100,000	949,853,507	29,246,493
借入金等利息支出	579,030,000 (0.3%)	578,881,217 (0.3%)	148,783
借入金等返済支出	12,059,630,000 (6.0%)	12,059,630,000 (5.9%)	0
施設関係支出	7,474,910,000 (3.7%)	6,614,216,694 (3.3%)	860,693,306
建物支出	5,419,540,000	1,652,521,146	3,767,018,854
構築物支出	839,280,000	523,585,316	315,694,684
建設仮勘定支出	1,216,050,000	4,438,055,232	△ 3,222,005,232
その他	40,000	55,000	△ 15,000
設備関係支出	4,549,180,000 (2.3%)	4,203,891,243 (2.1%)	345,288,757
教育研究用機器備品支出	4,035,520,000	3,798,543,640	236,976,360
その他の機器備品支出	209,030,000	116,335,157	92,694,843
図書支出	208,450,000	190,269,290	18,180,710
その他	96,180,000	98,743,156	△ 2,563,156
資産運用支出	6,958,830,000 (3.4%)	7,868,749,041 (3.9%)	△ 909,919,041
退職給与引当資産への繰入支出	80,990,000	80,982,500	7,500
施設設備引当資産への繰入支出	184,700,000	184,711,724	△ 11,724
特定引当資産への繰入支出	2,000,200,000	2,001,737,836	△ 1,537,836
松前重義記念基金への繰入支出	192,940,000	598,150,828	△ 405,210,828
東海大学湘南校合理工施設整備事業引当資産への繰入支出	4,500,000,000	4,500,000,000	0
その他	0	503,166,153	△ 503,166,153
その他の支出	14,091,770,000 (7.0%)	14,212,294,462 (7.0%)	△ 120,524,462
貸付金支払支出	324,800,000	339,915,250	△ 15,115,250
前期末未払金支払支出	13,437,000,000	13,455,791,520	△ 18,791,520
前払金支払支出	329,970,000	356,987,699	△ 27,017,699
その他	0	59,599,993	△ 59,599,993
予備費	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0
資金支出調整勘定	△ 11,320,970,000 -	△ 13,377,020,684 -	2,056,050,684
期末未払金	△ 10,886,030,000	△ 12,942,171,821	2,056,141,821
前期末前払金	△ 434,940,000	△ 434,848,863	△ 91,137
次年度繰越支払資金	45,156,489,414 -	48,501,626,190 -	△ 3,345,136,776
支出の部合計	201,735,289,414 -	203,424,846,497 -	△ 1,689,557,083

※ () 内は支出の部合計に対する構成割合。

2014年度消費収支計算書

自 2014年4月 1日

至 2015年3月31日

消費収入の部

学校法人東海大学

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
学生生徒等納付金	50,789,330,000 (36.8%)	50,763,893,527 (36.6%)	25,436,473
手数料	1,326,830,000 (1.0%)	1,282,902,237 (0.9%)	43,927,763
寄付金	1,601,590,000 (1.2%)	1,696,716,026 (1.2%)	△ 95,126,026
特別寄付金	709,610,000	728,474,845	△ 18,864,845
一般寄付金	806,860,000	854,093,410	△ 47,233,410
現物寄付金	85,120,000	114,147,771	△ 29,027,771
補助金	13,120,220,000 (9.5%)	12,636,380,538 (9.1%)	483,839,462
国庫補助金	7,801,980,000	7,204,247,843	597,732,157
地方公共団体補助金	5,316,240,000	5,430,132,695	△ 113,892,695
学術研究振興資金	2,000,000	2,000,000	0
資産運用収入	1,581,000,000 (1.1%)	1,612,262,153 (1.2%)	△ 31,262,153
資産売却差額	57,050,000 (0.0%)	62,466,458 (0.0%)	△ 5,416,458
事業収入	65,464,460,000 (47.4%)	66,252,790,768 (47.7%)	△ 788,330,768
雑収入	4,048,410,000 (2.9%)	4,488,717,206 (3.2%)	△ 440,307,206
帰属収入合計	137,988,890,000	138,796,128,913	△ 807,238,913
基本金組入額合計	△ 3,310,090,000 (2.4%)	△ 4,500,000,000 (3.2%)	1,189,910,000
消費収入の部合計	134,678,800,000	134,296,128,913	382,671,087

消費支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
人件費	67,634,280,000 (49.0%)	67,645,799,242 (48.7%)	△ 11,519,242
教員人件費	30,241,740,000	30,251,904,045	△ 10,164,045
職員人件費	32,064,750,000	32,078,554,351	△ 13,804,351
役員報酬	101,050,000	101,047,796	2,204
退職職金	3,439,340,000	3,534,972,772	△ 95,632,772
退職給与引当金繰入額	160,000,000	51,920,278	108,079,722
退職給与引当金特別繰入額	1,627,400,000	1,627,400,000	0
教育研究経費	58,551,880,000 (42.4%)	59,036,404,191 (42.5%)	△ 484,524,191
消耗品費	10,199,850,000	10,371,217,741	△ 171,367,741
光熱水費	3,556,960,000	3,489,000,127	67,959,873
旅費交通費	906,490,000	890,454,025	16,035,975
奨学費	1,250,800,000	1,259,385,396	△ 8,585,396
印刷製本費	521,530,000	506,989,399	14,540,601
通信運搬費	281,810,000	277,542,466	4,267,534
修繕費	2,372,300,000	2,235,571,275	136,728,725
賃借料	954,890,000	943,894,265	10,995,735
委託費	10,831,690,000	10,851,886,791	△ 20,196,791
減価償却額	9,907,870,000	9,866,110,204	41,759,796
医療経費	16,477,130,000	17,131,705,961	△ 654,575,961
その他	1,290,560,000	1,212,646,541	77,913,459
管理経費	8,995,550,000 (6.5%)	8,816,762,745 (6.4%)	178,787,255
消耗品費	288,870,000	312,268,437	△ 23,398,437
光熱水費	494,050,000	514,237,071	△ 20,187,071
旅費交通費	183,310,000	164,283,774	19,026,226
印刷製本費	416,470,000	413,363,052	3,106,948
広告費	436,140,000	432,030,606	4,109,394
通信運搬費	98,300,000	84,095,910	14,204,090
修繕費	236,710,000	215,146,304	21,563,696
賃借料	880,520,000	883,496,298	△ 2,976,298
委託費	3,145,960,000	3,077,915,843	68,044,157
公租公課	536,100,000	529,046,442	7,053,558
奨学金免除額	100,110,000	105,120,000	△ 5,010,000
減価償却額	1,199,910,000	1,134,083,200	65,826,800
その他	979,100,000	951,675,808	27,424,192
借入金等利息	579,030,000 (0.4%)	578,881,217 (0.4%)	148,783
資産処分差額	685,830,000 (0.5%)	680,387,333 (0.5%)	5,442,667
徴収不能引当金繰入額	76,120,000 (0.1%)	66,671,687 (0.0%)	9,448,313
予備費	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0
消費支出の部合計	136,522,690,000 (98.9%)	136,824,906,415 (98.6%)	△ 302,216,415
(当年度帰属収支差額)	(1,466,200,000) (1.1%)	(1,971,222,498) (1.4%)	(△505,022,498)
当年度消費収支差額	△ 1,843,890,000	△ 2,528,777,502	684,887,502
前年度繰越消費収支超過額	△ 188,639,059,873	△ 188,639,059,873	-
基本金取崩額	0	4,448,340,453	△ 4,448,340,453
翌年度繰越消費収支超過額	△ 190,482,949,873	△ 186,719,496,922	△ 3,763,452,951

※ 消費収支計算書の概要については「4. 決算の概要」の中に記載しております。

※ () 内は帰属収入合計に対する構成割合。

収 益 事 業 計 算 書

貸 借 対 照 表

2015年3月31日

東 海 大 学 出 版 部

(単位: 円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[流 動 資 産]	716,885,609	[流 動 負 債]	131,274,967
現 金 預 金	72,026,669	買 掛 金	53,554,606
受 取 手 形	2,100,000	未 払 金	59,975,738
売 掛 金	85,504,802	賞 与 引 当 金	790,000
商 品	491,403,482	返 品 調 整 引 当 金	15,000,000
委 託 品	26,036,252	そ の 他	1,954,623
仕 掛 品	5,354,030		
未 収 入 金	33,245,312		
そ の 他	2,025,062		
貸 倒 引 当 金	△ 810,000	負 債 の 部 合 計	131,274,967
[固 定 資 産]	7,925,098	純 資 産 の 部	
(有 形 固 定 資 産)	7,925,098	元 入 金	930,166,436
車 両	1	当 期 未 処 理 損 失	△ 336,630,696
器 具 備 品	7,925,097		
(投 資 等)	0		
破 産 更 生 債 権 等	1,572,560		
貸 倒 引 当 金	△ 1,572,560	純 資 産 合 計	593,535,740
資 産 の 部 合 計	724,810,707	負 債 ・ 純 資 産 の 部 合 計	724,810,707

損 益 計 算 書

自 2014年4月 1日

至 2015年3月31日

東 海 大 学 出 版 部

(単位: 円)

科 目	金 額
I 営 業 損 益	
1. 売 上 高	232,301,189
2. 売 上 原 価	137,941,435
売上総利益	94,359,754
返品調整引当金戻入額	11,000,000
返品調整引当金繰入額	15,000,000
差引売上総利益	90,359,754
3. 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	109,582,886
営業損失	19,223,132
II 営 業 外 損 益	
営業外収益	34,378,199
営業外費用	889,671
本 会 計 へ の 繰 入 前 利 益	14,265,396
当 期 利 益	14,265,396
前 期 損 失	350,896,092
当 期 末 損 失	336,630,696

4. 決算の概要

2014 年度決算の概要

学校法人における財務計算書類の概要説明

学校法人では、営利を主目的としないため、経営成績を明らかにするために企業が作成している損益計算書ではなく、学校法人会計基準（※）に基づいて「資金収支計算書」「消費収支計算書」「貸借対照表」という財務計算書類を作成します。それぞれの計算書類の概要は以下の通りとなっています。

※国からの経常費補助金の交付を受ける学校法人が行う会計処理について、文部科学省が定めた会計基準

資金収支計算書

学校法人の当該年度の諸活動にかかるすべての収支の内容および支払資金（現金・預金）の収支のてん末を明らかにするために作成されるものです。学生生徒等納付金や補助金等によって集められた資金が学校法人の目的である教育研究活動（授業・研究活動・施設設備投資 等）にどれだけ効果的に投下され、その結果、支払資金の保有状況がどのようになったかを表します。営利を主目的としない学校法人において、もっとも特徴のある財務計算書類のひとつです。

消費収支計算書

学校法人の当概年度の収支の内容および均衡の状態を明らかにするために作成されるものです。学生生徒等納付金や補助金等の自己資金となる財源（帰属収入）から学校を保持するための土地・建物・備品の取得費等（基本金組入）を差し引いた後の財源（消費収入）で、教育研究等のサービス等を行うためのコスト（消費支出）が賄われているかを表します。また消費収支計算書には、寄贈等による現物寄付金や建物・備品の減価償却額といった資金の出入りを伴わない計上額も含まれます。企業会計決算書の損益計算書と同等のものとも考えることもできます。

貸借対照表

学校法人の年度末日（3月31日）における資産や負債の状態を明らかにするために作成されるものです。資産は学校法人が所有している財産をどのような状態（土地、建物、備品、預金等）で持っているか、また負債は返還義務のある学校法人の債務がどのような状態（借入金、未払金、預り金等）にあるかを表しているものです。

2014年度資金収支計算書

自 2014年4月 1日

至 2015年3月31日

収 入 の 部

学校法人東海大学

(単位：百万円)

	科 目	2013 年 度 決 算	2014 年 度 決 算	差 異
①	学生生徒等納付金収入	50,727	50,764	△ 37
②	手数料収入	1,342	1,283	59
	寄付金収入	1,861	1,583	278
③	補助金収入	13,339	12,636	703
	資産運用収入	1,435	1,612	△ 177
	資産売却収入	577	149	428
④	事業収入	67,401	66,253	1,148
⑤	雑収入	4,613	4,488	125
	借入金等収入	8,006	8,004	2
⑥	前受金収入	8,637	8,608	29
	その他の収入	16,552	20,961	△ 4,409
	資金収入調整勘定	△ 23,722	△ 22,948	△ 774
	前年度繰越支払資金	48,013	50,032	△ 2,019
	収入の部合計	198,781	203,425	△ 4,644

支 出 の 部

学校法人東海大学

(単位：百万円)

	科 目	2013 年 度 決 算	2014 年 度 決 算	差 異
⑦	人件費支出	66,450	65,999	451
⑧	教育研究経費支出	48,834	49,188	△ 354
⑨	管理経費支出	7,106	7,575	△ 469
	借入金等利息支出	691	579	112
	借入金等返済支出	12,078	12,060	18
⑩	施設関係支出	6,203	6,614	△ 411
⑪	設備関係支出	4,395	4,204	191
⑫	資産運用支出	2,407	7,869	△ 5,462
	その他の支出	13,870	14,212	△ 342
	資金支出調整勘定	△ 13,285	△ 13,377	92
	次年度繰越支払資金	50,032	48,502	1,530
	支出の部合計	198,781	203,425	△ 4,644

※上表の額は十万円単位を四捨五入して掲載してあります。なお、一部の科目で端数処理による誤差を調整しております。

収入の部

①学生生徒等納付金収入

学生生徒数（約 45,000 人）が前年度より若干増加したことにより、増額となりました。

②手数料収入

受験者数（約 57,000 人）が前年度より若干減少したことにより、減額となりました。

③補助金収入

大学の経常費補助金において、特別補助の「研究施設運営支援」は増額となりましたが、一般補助全体の圧縮率が前年度に比べさらに厳しくなったことにより減額となりました。また、施設や設備の整備に関する補助金については、該当事業の実施件数が減少したことにより減額となりました。

④事業収入

付属八王子病院に関し、外来診療を院外処方にしたこと等により減額となりました。

⑤雑収入

退職金支出の財源となる退職金財団・社団からの交付金収入や科学研究費補助金の間接経費等を計上しました。

⑥前受金収入

大学・短大・初等中等機関約 14,000 人の学費前受金を計上しました。

支出の部

⑦人件費支出

前年度に比べ 4 億 5,100 万円減少しておりますが、そのうち約 3 億 9,600 万円は退職金支出の減少です。

⑧教育研究経費支出

医療収入が減少したことに伴い、医療経費も約 9 億 2,940 万円減少しましたが、消費税率の引上げ等による消耗品費（約 3 億 3,600 万円）・光熱水費（約 1 億 6,500 万円）・賃借料（約 1 億 5,300 万円）・委託費（約 6 億 3,600 万円）等の増加が生じたことにより、全体で増額となりました。

⑨管理経費支出

消費税率の引上げ等による委託費（約 2 億 5,100 万円）・公租公課（約 1 億 5,200 万円）等の増加が生じたことにより増額となりました。

⑩施設関係支出

東海大学伊勢原校舎「松前記念講堂新築工事（3 億 5,300 万円）」、付属かもめ幼稚園「管理棟建替工事（1 億 9,100 万円）」、付属自由ヶ丘幼稚園「保育棟増築工事（1 億 700 万円）」、付属かもめ幼稚園「保育棟新築工事（1 億 300 万円）」、東海大学湘南校舎「高間原第 1 グラウンド人工芝敷設整備工事（1 億 2,400 万円）」、東海大学湘南校舎「ラグビー場人工芝敷設整備工事（1 億円）」、パシフィックセンター移転に伴う校舎新築工事（32 億 3,600 万円）、東海大学札幌校舎「第 1 体育館建設工事（7 億 5,000 万円）」、付属第四高等学校「校舎建替工事（3 億 8,600 万円）」等を計上しました。

⑪設備関係支出

東海大学医学部付属八王子病院「電子カルテ端末等 1 式（2 億 9,400 万円）」、東海大学医学部付属病院「電子カルテネットワーク（1 億 4,800 万円）」等を計上しました。

⑫資産運用支出

学校法人東海大学建学 75 周年に向けた施設整備事業等の原資に充当すべく、東海大学湘南校舎理工系施設整備事業引当資産（45 億円）の積立を行いました。（第 2 号基本金充当）

2014年度消費収支計算書

自 2014年4月 1日

至 2015年3月31日

消費収入の部

学校法人東海大学

(単位：百万円)

科 目	2013年度 決算	2014年度 決算	差 異
① 学生生徒等納付金	50,727	50,764	△ 37
手数料	1,342	1,283	59
① 寄付金	2,547	1,697	850
補助金	13,339	12,636	703
② 資産運用収入	1,435	1,612	△ 177
② 資産売却差額	54	62	△ 8
事業収入	67,401	66,253	1,148
雑収入	4,641	4,489	152
③ 帰属収入合計	141,486	138,796	2,690
③ 基本金組入額合計	△ 4,410	△ 4,500	90
消費収入の部合計	137,076	134,296	2,780

消費支出の部

(単位：百万円)

科 目	2013年度 決算	2014年度 決算	差 異
④ 人件費	69,327	67,646	1,681
⑤ 教育研究経費	58,768	59,036	△ 268
⑥ 管理経費	8,342	8,816	△ 474
借入金等利息	691	579	112
⑦ 資産処分差額	407	680	△ 273
⑧ 徴収不能引当金繰入額	38	67	△ 29
消費支出の部合計	137,573	136,824	749
当年度消費支出超過額	497	2,528	△ 2,031
前年度繰越消費支出超過額	188,142	188,639	△ 497
⑨ 基本金取崩額	0	4,448	△ 4,448
翌年度繰越消費支出超過額	188,639	186,719	1,920

※上表の額は十万円単位を四捨五入して掲載してあります。なお、一部の科目では端数処理による誤差を調整しております。

資金収支計算書の概要の他、消費収入の部では以下の内容を計上しております。

消費収入の部

①寄付金

現物寄付として機器備品 1 億 260 万円と図書 1,160 万円を計上しました。

②資産売却差額（注 2）

一般県道瀬田熊本線道路改修事業用地として熊本市へ土地を売却した他、車両、機器備品の売却を計上しました。

③基本金組入額

第 2 号基本金（注 5）へ「東海大学湘南校舎理工系施設整備事業（45 億円）」を計上しました。

消費支出の部

④人件費

2011 年度から 10 年間にわたって均等に積み上げることとなった退職給与引当金特別繰入額（注 1）16 億 2,800 万円を計上した他、退職給与引当金繰入額（注 1）を 5,200 万円計上しました。

⑤教育研究経費

施設・設備の減価償却額（注 3）98 億 6,600 万円を計上しました。

⑥管理経費

奨学金免除額 1 億 500 万円と施設・設備の減価償却額 11 億 3,400 万円を計上しました。

⑦資産処分差額（注 2）

東海大学医学部付属病院南東進入路整備事業に伴う伊勢原市への寄贈、東海大学湘南校舎ラグビー場人工芝敷設整備工事に伴う除却、機器備品や図書等に係る除却額を計上しました。

⑧徴収不能引当金繰入額（注 4）

医療収入の未回収等を計上しました。

⑨基本金取崩額

第 1 号基本金（注 5）として取得した固定資産の額よりも除却した額が大きくなったため、その差額を取崩額として計上しました。

以上により、帰属収入合計から消費支出合計を差引いた「帰属収支差額」は 19 億 7,200 万円の収入超過、帰属収入合計を「帰属収支差額」で除した「帰属収支差額比率」は 1.4%となり、2010 年度より 5 ヶ年連続で帰属収支差額における収入超過となりました。しかし、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入から消費支出を差引いた当年度消費収支超過額は 25 億 2,800 万円の支出超過であり、前年度からの繰越消費支出超過額 1,886 億 3,900 万円及び基本金取崩額 44 億 4,800 万円をあわせると翌年度に繰り越す消費支出超過額は 1,867 億 1,900 万円となります。今後も更なる収支改善を推進し、累積している消費支出超過額の減少を図ってまいります。

貸借対照表

2015年3月31日

資産の部 (単位:百万円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
① 固定資産	273,840	272,358	1,482
② 流動資産	63,341	65,772	△ 2,431
資産の部合計	337,181	338,130	△ 949

負債の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
③ 固定負債	43,619	45,983	△ 2,364
④ 流動負債	31,309	31,865	△ 556
負債の部合計	74,928	77,848	△ 2,920

基本金の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
⑤ 第1号基本金	435,435	439,818	△ 4,383
⑥ 第2号基本金	4,434	0	4,434
第4号基本金	9,103	9,103	0
基本金の部合計	448,972	448,921	51

消費収支差額の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	186,719	188,639	1,920
消費収支差額の部合計	△ 186,719	△ 188,639	△ 1,920
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	337,181	338,130	△ 949

※ 上表の額は十万円単位を四捨五入して掲載してあります。なお、一部の科目で端数処理による誤差を調整しております。

資産の部

①固定資産

固定資産では減価償却額による110億円の固定資産の減少があったものの、資金収支計算書の施設設備関係支出の主な内容として記載した施設設備投資及び東海大学湘南校舎理工系施設整備事業引当資産の45億円の積立等によって、固定資産全体では前年度に比べて増加となりました。

②流動資産

現金預金が15億3,000万円の減少及び退職金支出の原資となる退職金財団・社団からの交付金未収入金の減少や施設設備整備に係る補助金が昨年度に比べ減少となったこと等により流動資産全体として前年度に比べて減少となりました。

負債の部

③固定負債

2011年度から計上されている退職給与引当金特別繰入16億2,700万円及び退職給与引当金繰入5,200万円により退職給与引当金の増加がありますが、長期借入金について当面新規借入金を抑制し、約定通りの返済を行っていること等から38億9,100万円減少しており、固定負債全体として前年度に比べて減少となりました。

④流動負債

短期借入金について償還し終わった借入金があったことによる減少や、短期未払金について施設関係等の未払金は増加したものの、退職金、リース関係、その他の未払金の減少により、流動負債全体として前年度に比べて減少となりました。

基本金の部

⑤第1号基本金

取得した固定資産の額よりも除却した額が大きくなったため減少しました。

⑥第2号基本金

東海大学湘南校舎「理工系施設整備事業（45億円）」（うち第1号基本金に6,600万円振替）を計上しました。

【用語解説（注）】

注1（退職給与引当金繰入額・特別繰入額）

将来、教職員が退職するときに支払われる退職金の見積額の一部を人件費（「退職給与引当金繰入額」）として消費支出に計上するものです。また、この繰入額の累計額は「退職給与引当金」として貸借対照表の固定負債に計上されます。

（退職給与引当金特別繰入額：退職給与引当金の計上に係る変更時差異を2011年度に一括計上せず、10ヶ年に分け毎年度均等に繰入れる措置として計上される額）

注2（資産売却差額・資産処分差額）

土地・建物等の固定資産を売却した場合に、売却した資産の売却価額（売却代金）が帳簿価額（取得価額から減価償却額を差し引いた後の額）より大きい場合に利益として帰属収入に計上するものが資産売却差額です。逆に売却価額が帳簿価額より小さい場合、もしくは売却ではなく廃棄処分した資産の帳簿価額を損失として消費支出に計上するものが資産処分差額です。

注3（減価償却額）

建物・備品等の固定資産は、時の経過によりその価値が徐々に減少していくという会計上の考え方により、使用期間に基づいて合理的な方法により配分した価値の減少分を費用として消費支出に計上するものです。

注4（徴収不能引当金）

授業料や医療収入の未回収分のうち徴収不能の可能性がある場合、過去の実績率に基づいて算出した徴収不能見積額を消費支出（「徴収不能引当金繰入額」）に計上するものです。また、この繰入額の累計額は「徴収不能引当金」として貸借対照表の負債に計上されます。

（実際には流動資産に計上される未収入金と相殺して計上されるため、貸借対照表では徴収不能引当金は確認することが出来ません。）

注5（基本金）

第1号基本金

学校法人が設立当初に取得した固定資産で教育の用に供されるものの価額又は新たな学校の設置若しくは既設の学校の規模の拡大若しくは教育の充実向上のために取得した固定資産の価額

第2号基本金

学校法人が新たな学校の設置又は既設の学校の規模の拡大若しくは教育の充実向上のために将来取得する固定資産の取得に充てる金銭その他の資産の額

第3号基本金

基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭その他の資産の額

第4号基本金

恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣の定める額

【前年度の事業活動収支計算書における教育活動収支の人件費（退職給与引当金繰入額及び退職金を除く。）、教育研究経費（減価償却額を除く。）、管理経費（減価償却額を除く。）及び教育活動外収支の借入金等利息の決算額の合計を12で除した額】

経年比較表

資金収支計算書

(単位: 百万円)

		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	
収入の部	一) 学生生徒等納付金収入	50,409	50,378	50,623	50,727	50,764	
	二) 手数料収入	1,158	1,156	1,287	1,342	1,283	
	三) 寄付金収入	1,667	1,686	1,767	1,861	1,583	
	四) 補助金収入	12,811	14,195	13,726	13,339	12,636	
	五) 資産運用収入	1,138	1,255	1,251	1,435	1,612	
	六) 資産売却収入	358	173	431	577	149	
	七) 事業収入	60,876	63,009	66,221	67,401	66,253	
	八) 雑収入	3,982	3,892	4,909	4,613	4,488	
	九) 借入金等収入	9,003	8,003	8,004	8,006	8,004	
	十) 前受金収入	8,741	8,665	8,523	8,637	8,608	
	十一) その他の収入	14,105	14,952	15,933	16,552	20,961	
	十三) 資金収支調整勘定	△ 21,637	△ 22,947	△ 23,993	△ 23,722	△ 22,948	
	十四) 前年度繰越支払資金	44,890	44,510	45,230	48,013	50,032	
	合 計		187,501	188,927	193,912	198,781	203,425
支出の部	一) 人件費支出	65,767	65,376	67,014	66,450	65,999	
	二) 教育研究経費支出	46,164	46,642	47,084	48,834	49,188	
	三) 管理経費支出	7,274	7,247	6,777	7,106	7,575	
	四) 借入金等利息支出	983	909	814	691	579	
	五) 借入金等返済支出	11,502	11,756	12,088	12,078	12,060	
	六) 施設関係支出	3,645	6,560	4,278	6,203	6,614	
	七) 設備関係支出	3,435	5,278	4,590	4,395	4,204	
	八) 資産運用支出	635	1,194	2,878	2,407	7,869	
	九) その他の支出	15,560	12,430	13,641	13,870	14,212	
	十二) 資金支出調整勘定	△ 11,974	△ 13,695	△ 13,265	△ 13,285	△ 13,377	
	十三) 次年度繰越支払資金	44,510	45,230	48,013	50,032	48,502	
	合 計		187,501	188,927	193,912	198,781	203,425

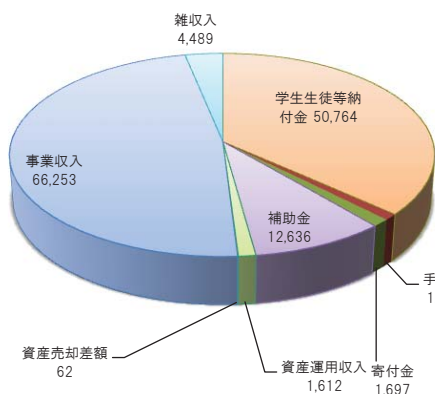
消費収支計算書

(単位: 百万円)

		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
帰属収入の部	一) 学生生徒等納付金	50,409	50,378	50,623	50,727	50,764
	二) 手数料	1,158	1,156	1,287	1,342	1,283
	三) 寄付金	1,826	1,801	1,934	2,547	1,697
	四) 補助金	12,811	14,195	13,726	13,339	12,636
	五) 資産運用収入	1,136	1,255	1,252	1,435	1,612
	六) 資産売却差額	13	90	132	54	62
	七) 事業収入	60,876	63,009	66,221	67,401	66,253
	八) 雑収入	3,986	3,898	5,841	4,641	4,489
帰属収入合計		132,215	135,782	141,016	141,486	138,796
基本金組入額		△ 8,871	△ 9,910	△ 9,314	△ 4,410	△ 4,500
消費収入の部合計		123,344	125,872	131,702	137,076	134,296
消費支出の部	一) 人件費	65,629	67,015	68,716	69,327	67,646
	二) 教育研究経費	56,035	57,287	56,882	58,768	59,036
	三) 管理経費	8,430	8,485	8,031	8,342	8,816
	四) 借入金等利息	983	909	815	691	579
	五) 資産処分差額	966	1,165	302	407	680
	六) 徴収不能引当金繰入額	75	65	88	38	67
	七) 予備費	0	0	0	0	0
消費支出の部合計		132,118	134,926	134,834	137,573	136,824
当年度消費支出超過額		8,774	9,054	3,132	497	2,528
前年度繰越消費支出超過額		167,182	175,956	185,010	188,142	188,639
基本金取崩額		0	0	0	0	4,448
翌年度繰越消費支出超過額		175,956	185,010	188,142	188,639	186,719

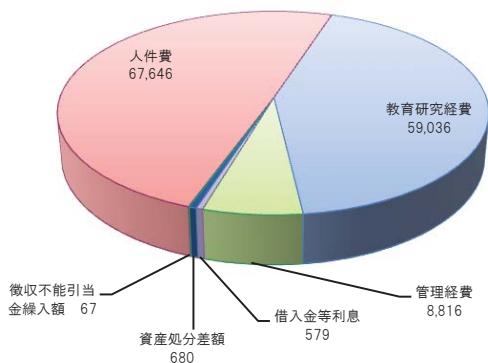
2014年度 帰属収入構成図

(百万円)



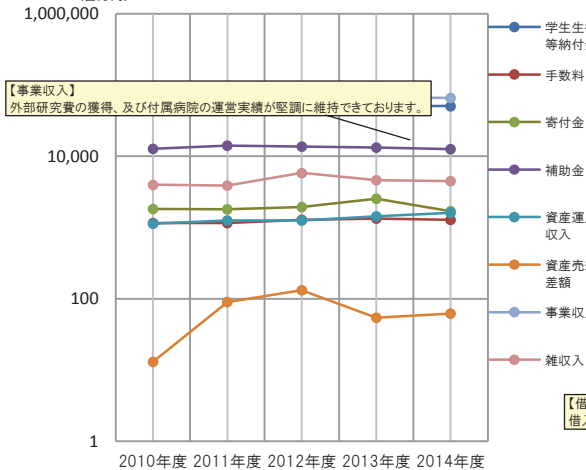
2014年度 消費支出構成図

(百万円)



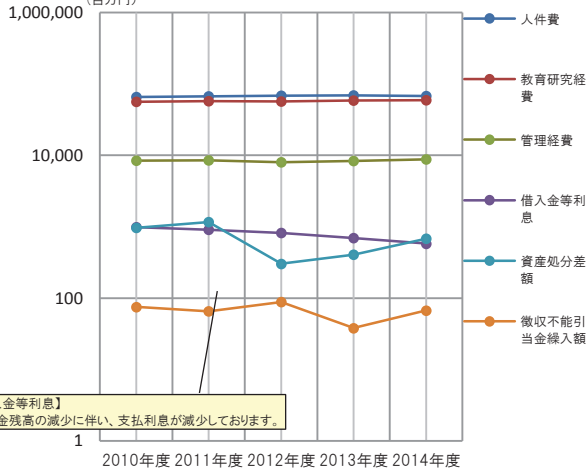
帰属収入科目別経年比較

(百万円)



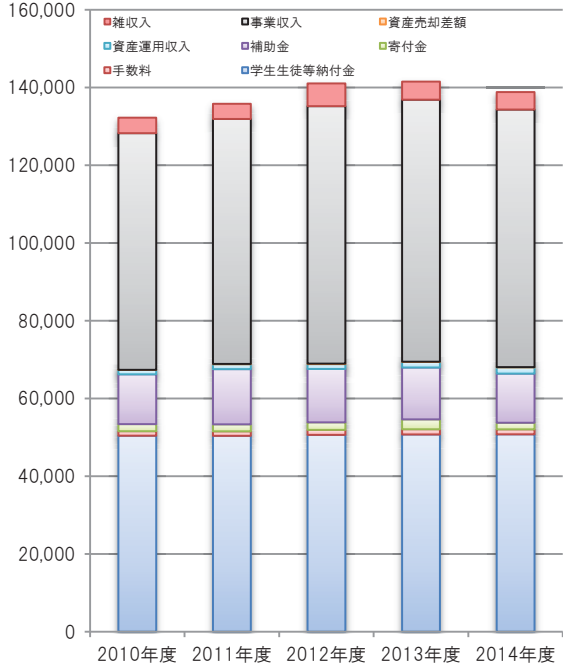
消費支出科目別経年比較

(百万円)



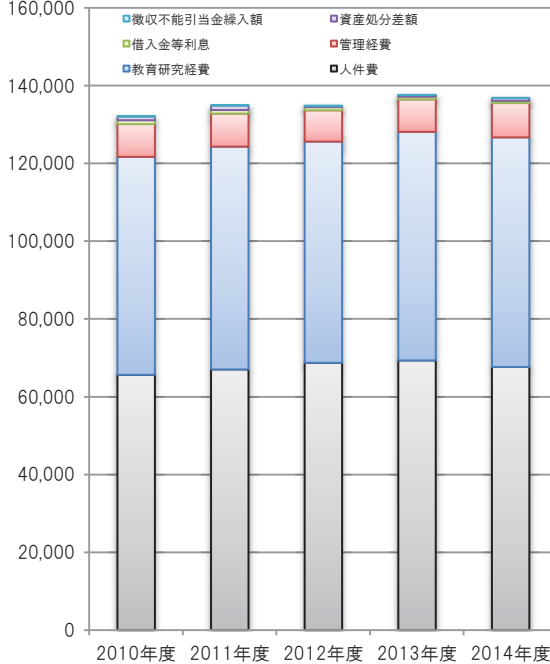
年度別帰属収入構成図

(百万円)



年度別消費支出構成図

(百万円)



学校法人東海大学

消費収支分析	算出式(%)	評価	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	全国平均値
①人件費比率	人件費/帰属収入	↓	49.6	49.4	48.7	49.0	48.7	49.0
②人件費依存率	人件費/学生生徒等納付金	↓	130.2	133.0	135.7	136.7	133.3	94.5
③教育研究経費比率	教育研究経費/帰属収入	↑	42.4	42.2	40.3	41.5	42.5	36.4
④管理経費比率	管理経費/帰属収入	↓	6.4	6.2	5.7	5.9	6.4	7.0
⑤借入金利息比率	借入金等利息/帰属収入	↓	0.7	0.7	0.6	0.5	0.4	0.2
⑥帰属収支差額比率	(帰属収入-消費支出)/帰属収入	↑	0.1	0.6	4.4	2.8	1.4	6.0
⑦消費収支比率	消費支出/消費収入	↓	107.1	107.2	102.4	100.4	101.9	105.6
⑧学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/帰属収入	↑↓	38.1	37.1	35.9	35.9	36.6	51.8
⑨寄付金比率	寄付金/帰属収入	↑↓	1.4	1.3	1.4	1.8	1.2	2.2
⑩補助金比率	補助金/帰属収入	↑↓	9.7	10.5	9.7	9.4	9.1	10.5
⑪経常費補助金比率	経常費補助金/帰属収入	↓	8.1	8.2	7.7	7.5	7.7	—
⑫基本金組入率	基本金組入額/帰属収入	↑↓	6.7	7.3	6.6	3.1	3.2	11.0
⑬減価償却額比率	減価償却額/消費支出	↑↓	8.5	8.6	8.2	8.0	8.0	9.9

↓ 低いほどよい
 ↑ 高いほどよい
 ↑↓ どちらともいえない

※ 全国平均値は、日本私立学校振興・共済事業団「平成26年度版 今日の私学財政 大学・短期大学編」より引用しております。

【各比率の概況】

① 人件費比率・・・帰属収入に対する人件費の割合を示します。一般的に値が低いほど経営状況が良いとされています。学園全体での比率は水準を下回っておりますが、部門ごとに見た場合は下記のような状況となりそれぞれ適正な値に近づくよう改善を進めて参ります。

[参考:部門ごとの人件費比率(2014年度)]

高等教育機関：51.6% 医学部・病院：42.9% 初等中等機関：69.9%

② 人件費依存率・・・学校法人の基幹収入である学生生徒等納付金収入で人件費をどの程度賄うことができているのかを示します。値が低いほど経営状況が良いとされています。本学は付属病院を運営していることから医療収入も基幹収入として認識する必要があり、学生生徒等納付金収入とあわせて見た場合の学園全体の人件費依存率(2014年度)は59.0%となります。

[参考:部門ごとの人件費依存率(2014年度)]

高等教育機関：65.2% 医学部・病院：46.5% 初等中等機関：126.9%

③ 教育研究経費比率・・・教育研究活動の維持・向上のために不可欠な経費である教育研究経費の帰属収入に対する割合を示します。消費収支の均衡を失しない限りにおいて可能な限り高い方が良いとされています。本学では付属病院経営を抱えているため予算編成の段階から当比率の目標水準を42%としており、2014年度においても概ね目標に近い値となっております。

[参考:部門ごとの教育研究経費比率(2014年度)]

高等教育機関：32.8% 医学部・病院：52.7% 初等中等機関：28.1%

④ 管理経費比率・・・管理経費の帰属収入に対する割合を示します。管理経費は直接的に教育研究活動に係る経費ではないため、学校法人を運営するための必要最低限の経費として低い比率となることが望ましいとされています。本学では当比率の目標水準を6%としており、2014年度においても概ね近い値となっております。

[参考:部門ごとの管理経費比率(2014年度)]

高等教育機関：6.2% 医学部・病院：3.9% 初等中等機関：4.1%

⑤ 借入金利息支出・・・借入金利息の帰属収入に対する割合を示します。借入金利息は資金調達を他人資金に依存しなければ発生しないものですので、当比率は低ければ低いほど良いとされております。本学では主に付属病院リニューアル費に係る借入金がありますが、元本返済が順調に進んでおり比率が毎年下がってきている状況です。

- ⑥ 帰属収支差額比率・・・ 帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額の帰属収入に対する割合を示します。当比率がプラスで大きくなるほど自己資金は充実されているとされ、経営に余裕があるとみなされます。本学では2010年度以降は帰属収支差額のプラスを維持しており、特に2012年度以降は将来の施設設備投資計画の原資として特定預金等の積立を継続しております。
[参考:部門ごとの帰属収支差額比率(2014年度)]
高等教育機関：8.4% 医学部・病院：△0.3% 初等中等機関：△3.8%
- ⑦ 消費収支比率・・・ 消費支出の消費収入に対する割合を示します。帰属収支差額の範囲内で基本金組入額が収まっていれば当比率は100%以内となります。消費収支をプラスとし、資金の蓄積を図るためには当比率が低いほど良いこととなります。本学では2014年度は除却額が多かったため第1号基本金は取崩しとなりましたが、第2号基本金において45億円の組入れを行ったため101.9%となりました。
[参考:部門ごとの消費収支比率(2014年度)]
高等教育機関：100.8% 医学部・病院：100.3% 初等中等機関：103.8%
- ⑧ 学生生徒等納付金比率・・・ 学生生徒等納付金の帰属収入に占める割合を示します。学生生徒等納付金は補助金や寄付金といった他の収入に比べ第三者の意向に左右されることの少ない重要な自己財源です。そのため当比率は安定的に推移していることが重要となりますが、一方で学生生徒等納付金に収入が偏りすぎることなく多様な収入基盤を持つことも重要なため、当比率が高水準であれば良いというわけではありません。本学では付属病院の経営が堅調に推移しており、医療収入が毎年伸びている状況です。そのため、相対的に学生生徒等納付金比率が減少傾向にあります。
- ⑨ 寄付金比率・・・ 寄付金の帰属収入に占める割合を示します。寄付金は私立学校にとって重要な収入源であり、一定水準の寄付金収入が継続して確保されることは経営安定に好ましいこととされています。本学では2017年度の建学75周年に向けた施設設備更新計画の原資等にすべく募金事業を強化しております。
- ⑩ 補助金比率・・・ 補助金の帰属収入に占める割合を示します。私立学校にとって補助金収入は納付金に次ぐ収入源泉となっており、補助金が増えることは大いに期待されているところです。しかし一方で、当比率が高い場合は学校法人の自主原資である納付金収入等が相対的に低いことになり、国や地方公共団体の財政状況によっては補助金削減等の影響を強く受け、経営の弾力性を失うことに繋がります。
- ⑪ 経常費補助金比率・・・ 収入源泉となっており、補助金が増えることは大いに期待されているところです。しかし一方で、当比率が高い場合は学校法人の自主原資である納付金収入等が相対的に低いことになり、国や地方公共団体の財政状況によっては補助金削減等の影響を強く受け、経営の弾力性を失うことに繋がります。
- ⑫ 基本金組入率・・・ 自己資金となる帰属収入の中からどれだけ基本金に組み入れたかを示します。学校法人の活動に不可欠な施設設備等の資産充実のためには、当比率が高いことが望ましいとされています。しかし帰属収入に対してあまりにも組入額が大きい場合は消費収支差額が支出超過となるため、帰属収入の規模に応じ収支均衡をはかった上での適切な組入を行うことが重要です。本学では2013・2014年度と比率が低いものとなっておりますが、これは除却額が大きく発生し組入額との相殺が生じたためです。
- ⑬ 減価償却費比率・・・ 減価償却額の消費支出に占める割合を示しますが、見方を変えれば減価償却額という非資金的支出として実質的には資金を消費せず、取替更新のための内部留保される割合を示しているとも言えます。本学では例年8%程度の水準で推移しています。

貸借対照表経年比較表

資 産 の 部

(単位: 百万円)

科 目	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
固 定 資 産	272,907	272,458	271,134	272,358	273,840
有 形 固 定 資 産	233,272	232,862	230,644	230,720	229,963
土 地	68,145	68,238	69,242	70,221	70,152
建 物	120,680	120,155	116,658	115,228	111,277
構 築 物	12,559	12,715	12,312	11,823	11,082
教育研究用機器備品	12,155	12,525	13,076	13,289	13,130
図 書	16,726	16,805	16,822	16,910	16,755
建設仮勘定	2,192	1,478	1,700	2,439	6,827
その他有形固定資産	815	946	834	810	740
その他の固定資産	39,635	39,596	40,490	41,638	43,877
諸 引 当 資 産	22,158	22,188	24,329	25,861	27,433
ソフトウェア	751	558	400	161	84
松前重義記念基金	10,398	10,733	10,923	11,063	11,261
その他固定資産	6,328	6,117	4,838	4,553	5,099
流 動 資 産	58,350	59,922	63,959	65,772	63,341
現 金 預 金	44,510	45,230	48,013	50,032	48,502
未 収 入 金	12,833	13,791	14,890	14,796	13,902
その他流動資産	1,008	901	1,056	944	937
資 産 の 部 合 計	331,258	332,380	335,093	338,130	337,181

負 債 の 部

科 目	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
固 定 負 債	53,268	51,396	47,788	45,983	43,619
長 期 借 入 金	40,970	36,885	32,811	28,757	24,866
長 期 未 払 金	1,987	2,562	2,247	1,620	1,500
退職給与引当金	10,239	11,878	12,652	15,529	17,176
その他固定負債	72	71	78	77	77
流 動 負 債	28,658	30,796	30,935	31,865	31,309
短 期 借 入 金	3,756	4,088	4,078	4,060	3,895
未 払 金	11,661	12,736	13,109	13,436	13,043
前 受 金	8,741	8,665	8,523	8,637	8,608
その他流動負債	4,500	5,307	5,225	5,732	5,763
負 債 の 部 合 計	81,926	82,192	78,723	77,848	74,928

基 本 金 の 部

科 目	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
第 1 号 基 本 金	416,184	426,095	435,409	439,818	435,435
第 2 号 基 本 金	0	0	0	0	4,434
第 4 号 基 本 金	9,103	9,103	9,103	9,103	9,103
基 本 金 の 部 合 計	425,287	435,198	444,512	448,921	448,972

消 費 収 支 差 額 の 部

科 目	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
翌年度繰越消費支出超過額	175,956	185,010	188,142	188,639	186,719
消費収支差額の部合計	△ 175,956	△ 185,010	△ 188,142	△ 188,639	△ 186,719

科 目	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	331,258	332,380	335,093	338,130	337,181

5. 事業報告書

建学の精神	5-1
総長挨拶	5-1
学園の沿革	5-2
設置する学校・学部・学科等	5-6
入学定員及び学生数の状況	5-9
役員の状況	5-11
教職員数	5-11
事業の概要	5-12

建学の精神

創立者松前重義は、青年時代に「人生いかに生きるべきか」について思い悩み、内村鑑三の研究会を訪ね、その思想に深く感銘を受けるようになりました。特にデンマークの教育による国づくりの歴史に啓発され、生涯を教育に捧げようと決意して「望星学塾」を開設しました。ここに東海大学の学園の原点があります。

創立者松前はこの「望星学塾」に次の四つの言葉を掲げました。

若き日に汝の思想を培え

若き日に汝の体軀を養え

若き日に汝の智能を磨け

若き日に汝の希望を星につなげ

ここでは、身体を鍛え、知能を磨くとともに、人間、社会、自然、歴史、世界等に対する幅広い視野をもって、一人ひとりが人生の基盤となる思想を培い、人生の意義について共に考えつつ希望の星に向かって生きていこうと語りかけています。

本学園は、このような創立者の精神を受け継ぎ、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を育てることにより、「調和のとれた文明社会を建設する」という理想を高く掲げ、歩み続けていきます。

総長挨拶



学校法人東海大学
総長 松前 達郎

新しい文明社会へ向かって

今日の文明社会は、高度の科学技術によって支えられています。20世紀の人類はわずか100年の間に月に到達し、原子の火を燃やし、遺伝子という生命の謎を解く鍵を手に入れました。その一方で私たちは、こうした先端技術が、扱い方を間違えれば人類を危機に導きかねないという時代に生きています。あるいは、近い将来100億人を超えるといわれる世界人口の増加は、地球の温暖化や食糧危機を促すといわれています。地球レベルでの環境破壊など、現代の文明社会の歪みも明らかになってきました。また、情報技術革命の進展は私たちの社会や生活のグローバル化を促進させる一方、世界では依然として地域紛争、民族・宗教対立が途絶えることはありません。そして、核軍縮が進んだといわれながらも、いまだ地球上には大量の核弾頭が存在しています。

こうした時代に、私たちは何をなすべきか——神やイデオロギーだけで人々の価値観が形成されていた時代は終わり、多様な価値観が存在するカオスの時代へ入りました。私たちはいま、21世紀初頭という大きな歴史の転換期に生きています。違う価値を排除するのではなく、多様な価値の存在を認めながらお互いが共存していく道を探っていくこと、そこに人と人、国と国、人と自然との新しい関係が生まれてくるはずです。生命科学の発達は、地球上の生きもの全てが同じ一つのいのちから生まれたことを明らかにしつつあります。私たち人類も何百万種といわれる地球上の生きものの一つとして存在しています。それゆえ、地球生命圏の一員としての新しい思想を構築しながら、未来の扉を開いていかなければなりません。

人類は長い歴史の中でさまざまな対立を繰り返してきました。これを克服し、人々が地球市民として心をつなぎ、人と社会と自然が共存できる新しい文明社会の実現をめざすこと——そこに学校法人東海大学の使命があるのです。

学園の沿革

- 1942 S17 ・ 12 財団法人国防理工学園を創設
- 1943 S18 ・ 4 航空科学専門学校を静岡県清水市三保に開校
- 1944 S19 ・ 4 電波科学専門学校を東京都中野区に開校(後に府中新校舎に移転)し、電波工業学校を併設
9 財団法人電気通信工学校(1937年設立)を合併
- 1945 S20 ・ 8 財団法人東海学園と改称
8 航空科学専門学校と電波科学専門学校を合併し、東海専門学校と改称。本校を静岡県清水市三保、分校を東京都府中市に設置
8 電気通信工学校と電波工業学校を合併し、東海工業学校と改称
10 東海専門学校を東海科学専門学校と改称
- 1946 S21 ・ 5 旧制大学令により東海大学認可。理工学部、経文学部、予科を静岡県清水市駒越に設置
- 1948 S23 ・ 4 東海高等学校を開校
4 東海大学実業高等学校を静岡県清水市三保に開校
- 1949 S24 ・ 4 東海大学第一中学校を静岡県清水市駒越に開校
- 1950 S25 ・ 2 学制改革により新制大学として開学し、工学部、文学部を設置
- 1951 S26 ・ 3 私立学校法施行により学校法人東海大学となる
3 東海科学専門学校を廃止
4 東海大学高等学校を静岡県静岡市宮前町に開校
- 1952 S27 ・ 4 東海大学短期大学部(商科)を静岡県清水市駒越に開学
4 東海高等学校を東海電波高等学校に改称
- 1955 S30 ・ 1 東海大学工学部を静岡県清水市より東京都渋谷区富ヶ谷に移転
4 東海大学付属高等学校を東京都渋谷区富ヶ谷に開校
- 1958 S33 ・ 4 東海大学文学部を静岡県清水市より東京都渋谷区富ヶ谷に移転
4 東海大学付属幼稚園を静岡県清水市三保に開園
- 1959 S34 ・ 4 東海大学付属高等学校に通信教育部を設置
4 東海大学工業高等学校を静岡県清水市三保に開校
- 1960 S35 ・ 3 超短波放送実用化試験局(FM東海)を東京都渋谷区富ヶ谷に開局
4 東海大学文学部の文学科を廃止し、史学科、英文学科を設置
- 1961 S36 ・ 4 東海大学文学部に広報学科を設置
4 東海大学工学部に経営工学科を設置
4 東海大学第二高等学校(普通科・工業科)を熊本県熊本市大江町に開校
6 電子計算センターを東京都渋谷区富ヶ谷に設置
- 1962 S37 4 東海大学に海洋学部を開設し、海洋工学科、海洋資源学科を静岡県清水市折戸に設置
4 東海大学工学部に機械工学科を設置
4 東海大学出版会を東京都渋谷区富ヶ谷に設置
5 海洋調査実習船「東海大学丸」が就航
- 1963 S38 ・ 4 東海大学に大学院工学研究科を設置
4 東海大学湘南校舎を神奈川県平塚市北金目に開設
4 東海大学に第二工学部を開設し、電気工学科、応用理学科、建設工学科、機械工学科を設置
4 東海大学短期大学部(東京)を東京都港区高輪に開設し、電気通信工学科を設置
4 東海大学付属相模高等学校を神奈川県相模原市相南に開校
4 東海大学第三高等学校(普通科・工業科)を長野県茅野市玉川に開校
4 東海大学付属高等学校通信教育部を独立させ、東海大学付属望星高等学校を開校
- 1964 S39 ・ 4 東海大学に理学部を開設し、数学科、物理学科、化学科を神奈川県平塚市北金目に設置
4 東海大学に別科(日本語研修課程)を神奈川県平塚市北金目に開設
4 東海大学短期大学部(熊本)を熊本県熊本市大江町に開設し、電気工学科、機械工学科を設置
4 東海大学第四高等学校を北海道札幌市南区南沢に開校
- 1965 S40 ・ 4 東海大学文学部に日本文学科、文明学科(アジア専攻)を設置
4 東海大学工学部に光学工学科を設置
4 東海大学短期大学部(女子)を静岡県静岡市宮前町に開設し、生活科学科を設置
- 1966 S41 ・ 4 東海大学に政治経済学部を開設し、政治学科、経済学科を神奈川県平塚市北金目に設置
4 東海大学文学部文明学科にヨーロッパ専攻を設置
4 東海大学工学部に通信工学科、電子工学科、工業化学科、金属材料工学科、建築学科、土木工学科を設置
4 東海大学海洋学部船舶工学科を設置
4 東海大学福岡教養部を福岡県宗像郡赤間に開設
4 東海大学短期大学部(女子)に食物栄養学科を設置
4 東海大学第五高等学校を福岡県宗像郡赤間に開校
- 1967 S42 ・ 4 東海大学大学院に海洋学研究科を設置
4 東海大学に体育学部を開設し、体育学科を神奈川県平塚市北金目に設置
4 東海大学文学部に北欧文学科を設置
4 東海大学工学部に航空宇宙学科を設置
4 東海大学札幌教養部を北海道札幌市南区南沢に開設
4 東海大学付属小学校を静岡県清水市三保に開校
- 1968 S43 ・ 1 海洋調査実習船「東海大学丸二世」が就航
4 東海大学に教養学部を開設し、生活学科、芸術学科を神奈川県平塚市北金目に設置
4 東海大学海洋学部海洋土木工学科、水産学科を設置
4 東海大学体育学部武道学科を設置
4 東海大学大学院に理学研究科を設置
- 1969 S44 ・ 4 東海大学大学院に文学研究科を設置
4 東海大学工学部に制御工学科を設置
4 東海大学短期大学部(女子)に児童教育学科を設置
- 1970 S45 ・ 4 東海大学海洋学部海洋科学科を設置
5 海洋科学博物館を静岡県清水市三保に開設
9 ヨーロッパ学術センターをデンマーク・コペンハーゲンに開設

- 1971 S46 ・ 4 東海大学大学院に政治学研究科を設置
4 東海大学短期大学部(熊本)に建設工学科を設置
4 東海大学工学部に原子力工学科、応用物理学科、動力機械工学科、生産機械工学科、精密機械工学科を設置
4 東海大学体育学部に社会体育学科を設置
7 海洋調査実習船「望星丸」が就航
- 1972 S47 ・ 4 東海大学工学部短期大学を北海道旭川市神居町に開学し、工芸学科を設置
4 東海大学教養学部に国際学科を設置
- 1973 S48 ・ 4 東海大学大学院に芸術学研究科を設置
4 東海大学海洋学部に航海工学科を設置
4 九州東海大学を熊本県熊本市大江町に開学し、工学部電気工学科、機械工学科、建設工学科を設置
4 九州東海大学阿蘇校舎を熊本県阿蘇郡長陽村に開設
4 東海大学付属本田記念幼稚園を神奈川県伊勢原市下糟屋に開園
5 人体科学博物館を静岡県清水市三保に開設
- 1974 S49 ・ 4 東海大学医学部を神奈川県伊勢原市下糟屋に開設し、医学科を設置
4 東海大学理学部に情報数理学科を設置
4 東海大学政治経済学部に経営学科を設置
4 東海大学医療技術短期大学を神奈川県平塚市南金目に開学し、第一看護学科、第二看護学科を設置
4 東海大学沼津教養部を静岡県沼津市西野に開設
- 1975 S50 ・ 2 東海大学医学部付属病院を神奈川県伊勢原市下糟屋に開設
- 1976 S51 ・ 4 東海大学大学院に体育学研究科を設置
4 九州東海大学工学部に建築学科、土木工学科、経営管理学科を設置
- 1977 S52 ・ 3 東海大学短期大学部(熊本)の電気工学科(第一部・第二部)・機械工学科(第一部・第二部)、建設工学科を廃止
4 北海道東海大学を北海道旭川市神居町に開学し、芸術工学部デザイン学科、建築学科を設置
- 1978 S53 ・ 10 海洋調査実習船「望星丸二世」が就航
- 1979 S54 ・ 12 東海大学大学院に経済学研究科を設置
4 東海大学付属高等学校、東海大学実業高等学校を廃止
- 1980 S55 ・ 1 東海大学工学短期大学を廃止
3 九州東海大学工学部の建設工学科を廃止
4 東海大学付属相模中学校を神奈川県相模原市相南に開校
4 九州東海大学に農学部を開設し、農学科、畜産学科を熊本県阿蘇郡長陽村に設置
4 東海大学大学院に医学研究科を設置
- 1982 S57 ・ 4 東海大学短期大学部(静岡)に商経学科第一部を設置し、商学科を商経学科第二部に名称変更
- 1983 S58 ・ 4 東海大学文学部史学科に、日本史学専攻、東洋史学専攻、西洋史学専攻、考古学専攻を設置
4 東海大学付属仰星高等学校を大阪府枚方市桜丘町に開校
12 東海大学医学部付属東京病院を東京都渋谷区代々木に開設
- 1984 S59 ・ 4 九州東海大学に大学院農学研究科を設置
4 東海大学医学部付属大磯病院を神奈川県中郡大磯町に開校
- 1985 S60 ・ 4 東海大学第二高等学校に電子情報科を設置
- 1986 S61 ・ 4 東海大学に法学部を開設し、法律学科を神奈川県平塚市北金目に設置
4 九州東海大学工学部に電子情報工学科を設置
4 東海大学工業高等学校に電子情報科を設置
4 東海大学第四高等学校付属中等部を北海道札幌市南区南沢に開校
- 1987 S62 ・ 4 九州東海大学工学部に情報システム工学科を設置
- 1988 S63 ・ 3 東海大学札幌教養部、同沼津教養部を廃止
4 北海道東海大学に工学部並びに国際文化学部を開設し、電子情報工学科、海洋開発工学科、生物工学科及び国際文化学科(比較文化専攻 コミュニケーション専攻)を北海道札幌市南区南沢に設置
10 東海大学付属デンマーク校を開校
- 1989 H1 ・ 4 東海大学付属望星高等学校に単位制コースを開設
- 1990 H2 ・ 3 東海大学福岡教養部を廃止
4 東海大学福岡短期大学を福岡県宗像市田久に開設し、情報処理科、国際文化学科を設置
4 東海大学大学院に法学研究科を設置
4 九州東海大学大学院に工学研究科を設置
4 北海道東海大学に大学院芸術学研究科を設置
6 学校法人東海高輪学園(東海大学付属高輪台高等学校)を合併
- 1991 H3 ・ 4 東海大学に開発工学部を開設し、情報通信工学科、素材工学科、生物工学科、医用生体工学科を静岡県沼津市西野に設置
- 1993 H5 ・ 4 北海道東海大学大学院に理工学研究科を設置
6 学校法人精華学園(東海大学付属浦安高等学校、同付属望洋高等学校、同付属浦安中学校)を合併
- 1995 H7 ・ 4 東海大学大学院に開発工学研究科を設置
4 東海大学に健康科学部を開設し、看護学科、社会福祉学科を神奈川県伊勢原市下糟屋に設置
- 1996 H8 ・ 4 学校法人東海福岡学園(東海大学付属自由ヶ丘幼稚園)を合併
4 東海大学付属仰星高等学校中等部を大阪府枚方市桜丘町に開校
- 1998 H10 ・ 4 東海大学海洋学部の船舶工学科をマリンデザイン工学科に名称変更
- 1999 H11 ・ 4 東海大学大学院に健康科学研究科を設置
4 北海道東海大学国際文化学部に北方圏文化学科を設置
4 九州東海大学工学部の機械工学科、土木工学科を機械システム工学科、都市工学科に名称変更
4 東海大学短期大学部の電気通信工学科第一部、同第二部を情報・ネットワーク工学科第一部、同第二部に名称変更
4 東海大学工業高等学校を東海大学付属翔洋高等学校に名称変更し、普通科、科学技術科を設置
10 東海大学第一高等学校を廃止
- 2000 H12 ・ 4 東海大学海洋学部の海洋工学科を地球環境工学科に名称変更
4 北海道東海大学工学部の電子情報工学科、海洋開発工学科を情報システム学科、海洋環境学科に名称変更
4 九州東海大学に応用情報学部を開設し、情報マネジメント学科、情報システム学科を熊本県熊本市渡鹿に設置
4 九州東海大学工学部に宇宙地球情報工学科、電気電子システム工学科を設置
4 九州東海大学農学部に応用植物科学科、応用動物科学科、バイオサイエンス学科を設置
4 東海大学短期大学部の情報・ネットワーク工学科第一部を情報・ネットワーク工学科に名称変更
- 2001 H13 ・ 3 東海大学付属高輪台高等学校の全日制的課程工業科、定時制的課程普通科、工業科を廃止
3 東海大学付属翔洋高等学校の全日制的課程電気科、機械科、電子情報科を廃止

- 4 東海大学に電子情報学部を開設し、情報科学科、情報メディア学科、経営システム工学科、コンピュータ応用工学科、エレクトロニクス学科、コミュニケーション工学科、電気電子工学科を神奈川県平塚市北金目に設置
- 4 東海大学文学部に文明学科、アジア文明学科、ヨーロッパ文明学科、アラカ文明学科、日本文学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科を設置
- 4 東海大学工学部に生命化学科、応用化学科、応用理学科を設置
- 4 東海大学工学部の金属材料工学科、生産機械工学科、精密機械工学科を材料科学科、機械工学科、精密工学科に名称変更
- 4 東海大学文学部の英文学科、史学科(日本史学専攻、東洋史学専攻、西洋史学専攻、考古学専攻)、北欧文学科を英語文化コミュニケーション学科、歴史学科、北欧学科に名称変更
- 4 東海大学教養学部的生活学科を人間環境学科に名称変更
- 4 東海大学短期大学部の商経学科第二部を廃止し、商経学科第一部を商経学科に名称変更
- 2002 H14 3 東海大学第二高等学校の全日制の課程電気科、機械科、電子情報科を廃止
- 3 東海大学医学部付属八王子病院を東京都八王子市石川町に開院
- 4 東海大学第二工学部の電気工学科、建設工学科を情報システム学科、建築デザイン学科に名称変更
- 12 学校法人東海大学熊本学園(かもめ幼稚園)を合併
- 2003 H15 4 北海道東海大学芸術工学部にくらしデザイン学科を設置
- 4 東海大学短期大学部の生活科学科、商経学科を人間環境学科、経営情報学科に名称変更
- 4 東海大学第一中学校を東海大学付属翔洋中学校に名称変更
- 4 かもめ幼稚園を東海大学付属かもめ幼稚園に名称変更
- 5 東海大学短期大学部の情報・ネットワーク学科第二部を廃止
- 2004 H16 4 東海大学に専門職大学院を開設し、実務法学研究科を東京都渋谷区富ヶ谷に設置
- 4 東海大学体育学部競技スポーツ学科、スポーツレジャーマネジメント学科を設置、社会体育学科を生涯スポーツ学科に名称変更
- 4 東海大学開発工学部感性デザイン学科を設置、素材工学科を物質化学科に名称変更
- 4 東海大学海洋学部海洋文明学科を設置
- 4 北海道東海大学国際文化学部地域創造学科、コミュニケーション学科を設置
- 4 東海大学医療技術短期大学の第一看護学科を看護学科に名称変更
- 4 東海大学第二高等学校、同第三高等学校、同第四高等学校、同第五高等学校、同第四高等学校付属中等部を東海大学付属第二高等学校、同付属第三高等学校、同付属第四高等学校、同付属第五高等学校、同付属第四高等学校中等部に名称変更
- 5 九州東海大学農学部農学科、畜産学科を廃止
- 2005 H17 3 東海大学医療技術短期大学の第二看護学科を廃止
- 4 東海大学に連合大学院(九州東海大学と北海道東海大学との連合)を開設し、理工学研究科、地球環境科学研究科、生物科学研究科を設置
- 4 九州東海大学工学部の宇宙地球情報工学科をリモートセンシング学科に名称変更
- 4 北海道東海大学大学院に国際地域学研究科を設置
- 2006 H18 3 東海大学付属翔洋高等学校の全日制の課程科学技術科を廃止
- 4 東海大学電子情報学部を情報理工学部名称変更
- 4 東海大学情報理工学部にソフトウェア開発工学科、情報通信電子工学科を設置
- 4 東海大学工学部に光・画像工学科、エネルギー工学科、電気電子工学科を設置
- 4 東海大学第二工学部を情報デザイン工学部に名称変更
- 4 東海大学海洋学部水産学科、海洋生物学科を設置、地球環境工学科、海洋土木工学科、マリンデザイン工学科、航海工学科を環境情報工学科、海洋建設工学科、船舶海洋工学科、航海学科に名称変更
- 5 東海大学工学部の光学工学科、制御工学科を廃止
- 5 九州東海大学工学部の電気工学科、経営管理学科、電子情報工学科、情報システム工学科を廃止
- 2007 H19 4 東海大学専門職大学院に組込み技術研究科を東京都港区高輪に設置
- 4 東海大学大学院に人間環境学研究科を設置
- 4 九州東海大学工学部に環境保全学科、情報システム学科を設置
- 4 東海大学付属高輪台高等学校中等部を東京都港区高輪に開校
- 4 平和戦略国際研究所を廃止
- 5 東海大学工学部の電子工学科、工業化学科、原子力工学科、応用物理学科を廃止
- 5 東海大学文学部の広報学科、日本文学科を廃止
- 5 東海大学短期大学部の人間環境学科を廃止
- 2008 H20 3 東海大学付属デンマーク校を閉校
- 4 東海大学に総合経営学部を開設し、マネジメント学科を熊本県熊本市渡鹿に設置
- 4 東海大学に国際文化学部を開設し、地域創造学科、国際コミュニケーション学科を北海道札幌市南区南沢に設置
- 4 東海大学に情報通信学部を開設し、情報メディア学科、組込みソフトウェア工学科、経営システム工学科、通信ネットワーク工学科を東京都港区高輪に設置
- 4 東海大学に芸術工学部を開設し、くらしデザイン学科、建築・環境デザイン学科を北海道旭川市神居町に設置
- 4 東海大学に産業工学部を開設し、環境保全学科、電子知能システム工学科、機械システム工学科、建築学科を熊本県熊本市渡鹿に設置
- 4 東海大学に生物理工学部を開設し、生物工学科、海洋生物科学科、生体機能科学科を北海道札幌市南区南沢に設置
- 4 東海大学に農学部を開設し、応用植物科学科、応用動物科学科、バイオサイエンス学科を熊本県阿蘇郡南阿蘇村に設置
- 4 東海大学大学院に国際地域学研究科、芸術工学研究科、産業工学研究科、理工学研究科、農学研究科を設置
- 4 連合大学院(九州東海大学と北海道東海大学との連合)理工学研究科、地球環境科学研究科、生物科学研究科を東海大学大学院総合理工学研究科、地球環境科学研究科、生物科学研究科に名称変更
- 4 東海大学付属浦安中学校、同付属相模中学校を東海大学付属浦安高等学校中等部、同付属相模高等学校中等部に名称変更
- 5 東海大学工学部の電気工学科、通信工学科を廃止
- 5 東海大学文学部の文明学科(アジア専攻、ヨーロッパ専攻)を廃止
- 5 九州東海大学の応用情報学部情報マネジメント学科、情報システム学科を廃止
- 5 九州東海大学の機械システム工学科、環境保全学科、情報システム学科を廃止
- 5 九州東海大学の農学部応用植物科学科、応用動物科学科、バイオサイエンス学科を廃止
- 5 北海道東海大学芸術工学部のデザイン学科、建築学科を廃止
- 5 北海道東海大学国際文化学部の国際文化学科(比較文化専攻、コミュニケーション専攻)、北方圏文化学科を廃止
- 9 九州東海大学の大学院工学研究科、農学研究科を廃止
- 9 九州東海大学大学院を廃止
- 9 北海道東海大学の大学院芸術学研究科、理工学研究科、国際地域学研究科を廃止
- 9 北海道東海大学大学院を廃止
- 2009 H21 4 東海大学付属翔洋中学校を東海大学付属翔洋高等学校中等部に名称変更
- 5 東海大学工学部の経営工学科を廃止

- 5 九州東海大学工学部の電気電子システム工学科を廃止
- 5 北海道東海大学工学部の海洋環境学科、生物工学科を廃止
- 5 北海道東海大学の国際文化学部地域創造学科、コミュニケーション学科を廃止
- 9 東海大学短期大学部の情報・ネットワーク学科を廃止
- 2010 H22 ・ 4 東海大学に観光学部を開設し、観光学科を神奈川県平塚市北金目に設置
- 4 東海大学工学部に医用生体工学科を設置、エネルギー工学科を原子力工学科に名称変更
- 9 九州東海大学の工学部リモートセンシング学科、建築学科、都市工学科を廃止
- 9 九州東海大学を廃止
- 9 北海道東海大学の芸術工学部くらしデザイン学科、工学部情報システム学科を廃止
- 9 北海道東海大学を廃止
- 2011 H23 ・ 1 東海大学情報デザイン工学部の機械工学科を廃止
- 4 東海大学海洋学部に環境社会学科、海洋地球科学科、航海工学科を設置
- 2012 H24 ・ 4 東海大学国際文化学部デザイン文化学科を設置
- 4 東海大学に生物学部を開設し、生物学科、海洋生物科学科を北海道札幌市南区南沢に設置
- 4 東海大学大学院に情報通信学研究科を設置
- 4 東海大学付属第二高等学校を東海大学付属熊本星翔高等学校に名称変更
- 5 東海大学情報理工学部の電気電子工学科を廃止
- 5 東海大学工学部の応用理学科を廃止
- 2013 H25 ・ 4 東海大学に経営学部を開設し、経営学科、観光ビジネス学科を熊本県熊本市渡鹿に設置
- 4 東海大学に基盤工学部を開設し、電気電子情報工学科、医療福祉工学科を熊本県熊本市渡鹿に設置
- 5 東海大学情報理工学部の情報通信電子工学科、エレクトロニクス学科、コミュニケーション工学科を廃止
- 5 東海大学開発工学部の感性デザイン学科、物質化学科、生物工学科、医用生体工学科を廃止
- 5 東海大学海洋学部の水産学科(水産資源開発課程、増殖課程)を廃止
- 5 東海大学の情報デザイン工学部を廃止
- 5 東海大学専門職大学院の組込み技術研究科を廃止
- 2014 H26 ・ 1 東海大学付属第五高等学校の理数科を廃止
- 1 東海大学海洋学部の環境情報工学科を廃止
- 5 東海大学情報理工学部のソフトウェア開発工学科、情報メディア学科を廃止
- 5 東海大学の開発工学部を廃止
- 5 東海大学海洋学部の船舶海洋工学科を廃止
- 5 東海大学大学院の芸術工学研究科を廃止
- 5 東海大学短期大学部の経営情報学科を廃止

設置する学校・学部・学科等

2014年5月1日現在

大学名	学部名	学科名	(専攻・課程)	
東海大学	文学部	文明学科		
		アジア文明学科		
		ヨーロッパ文明学科		
		アメリカ文明学科		
		北欧学科		
		歴史学科	日本史専攻 東洋史専攻 西洋史専攻 考古学専攻	
		日本文学科		
		文芸創作学科		
		英語文化コミュニケーション学科		
		広報メディア学科		
		心理・社会学科		
		観光学部	観光学科	
		政治経済学部	政治学科	
			経済学科	
	経営学科			
	経営学部	経営学科		
	法学部	観光ビジネス学科 法律学科		
	教養学部	人間環境学科	自然環境課程 社会環境課程	
		芸術学科	音楽学課程 美術学課程 デザイン学課程	
		国際学科		
	国際文化学部	地域創造学科		
		国際コミュニケーション学科		
		デザイン文化学科		
	理学部	数学科		
		情報数理学科		
		物理学科		
	情報理工学部	化学科		
		情報科学科 コンピュータ応用工学科		
	情報通信学部	情報メディア学科		
		組込みソフトウェア工学科		
		経営システム工学科		
		通信ネットワーク工学科		
		生命化学科		
	工学部	応用化学科		
		光・画像工学科		
		原子力工学科		
		電気電子工学科		
		材料科学科		
		建築学科		
		土木工学科		
		精密工学科		
		機械工学科		
		動力機械工学科		
		航空宇宙学科	航空宇宙学専攻 航空操縦学専攻	
		医用生体工学科		
		基盤工学部	電気電子情報工学科	
			医療福祉工学科	
	海洋学部	海洋文明学科		
		環境社会学科		
		海洋地球科学科		
		水産学科	生物生産学専攻 食品科学専攻	
		海洋生物学科		
	生物学部	航海工学科	航海学専攻 海洋機械工学専攻	
生物学科				
農学部	海洋生物科学科			
	応用植物科学科			
体育学部	応用動物科学科			
	バイオサイエンス学科			
	体育学科			
	競技スポーツ学科			
	武道学科			
医学部	生涯スポーツ学科			
	スポーツジャーナリズム学科			
健康科学部	医学科			
乗船実習課程	看護学科			
	社会福祉学科			
別科日本語研修課程				

※1 改組改編等により募集停止となった学部学科等については、掲載しておりません。

大学院		研究科名	専攻名	博士課程前期 (修士課程)	博士課程後期 (博士課程)	
東海大学	専門職大学院	実務法学研究科	実務法律学専攻	法務博士	(専門職)	
		総合理工学研究科	総合理工学専攻	—	○	
	地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	—	○		
	生物科学研究科	生物科学専攻	—	○		
	文学研究科	文明研究専攻	○	○		
		史学専攻	○	○		
		日本文学専攻	○	○		
		英文学専攻	○	○		
		コミュニケーション学専攻	○	○		
		観光学専攻	○	—		
		政治学研究科	政治学専攻	○	○	
		経済学研究科	応用経済学専攻	○	○	
		法学研究科	法律学専攻	○	○	
		人間環境学研究科	人間環境学専攻	○	—	
		芸術学研究科	音響芸術専攻	○	—	
			造型芸術専攻	○	—	
		国際地域学研究科	国際地域学専攻	○	—	
		理学研究科	数理学専攻	○	—	
	物理学専攻		○	—		
	化学専攻		○	—		
	情報通信学研究科	情報通信学専攻	○	—		
	工学研究科	情報理工学専攻	○	—		
		電気電子システム工学専攻	○	—		
		応用理学専攻	○	—		
		光工学専攻	○	—		
		工業化学専攻	○	—		
		金属材料工学専攻	○	—		
		建築学専攻	○	—		
		土木工学専攻	○	—		
		機械工学専攻	○	—		
		航空宇宙学専攻	○	—		
		医用生体工学専攻	○	—		
		産業工学研究科	生産工学専攻	○	—	
			情報工学専攻	○	—	
			社会開発工学専攻	○	—	
	海洋学研究科	海洋工学専攻	○	—		
		水産学専攻	○	—		
		海洋科学専攻	○	—		
	理工学研究科	海洋生物科学専攻	○	—		
	農学研究科	環境生物科学専攻	○	—		
	農学研究科	農学専攻	○	—		
	体育学研究科	体育学専攻	○	—		
	医学研究科	先端医科学専攻	—	○		
		医科学専攻	○	—		
	健康科学研究科	看護学専攻	○	—		
		保健福祉学専攻	○	—		
	短期大学名		学 科 名			
	東海大学短期大学部 静岡県静岡市葵区	食物栄養学科				
		児童教育学科				
	東海大学医療技術短期大学 神奈川県平塚市	看護学科				
	東海大学福岡短期大学 福岡県宗像市	情報処理学科				
国際文化学科						

※1 改組改編等により募集停止となった学部学科等については、掲載しておりません。

区分	学 校 名		
高等学校	東海大学付属浦安高等学校	全日制	千葉県浦安市
	東海大学付属相模高等学校	全日制	神奈川県相模原市南区
	東海大学付属高輪台高等学校	全日制	東京都港区
	東海大学付属翔洋高等学校	全日制	静岡県静岡市清水区
	東海大学付属熊本星翔高等学校	全日制	熊本県熊本市東区
	東海大学付属第三高等学校	全日制	長野県茅野市
	東海大学付属第四高等学校	全日制	北海道札幌市南区
	東海大学付属第五高等学校	全日制	福岡県宗像市
	東海大学付属仰星高等学校	全日制	大阪府枚方市
	東海大学付属望洋高等学校	全日制	千葉県市原市
	東海大学付属望星高等学校 (東京校)	通信制	東京都渋谷区
(熊本校)	熊本県熊本市東区		
	東海大学付属甲府高等学校 (別法人)	全日制	山梨県甲府市
中等部	東海大学付属浦安高等学校中等部		千葉県浦安市
	東海大学付属相模高等学校中等部		神奈川県相模原市南区
	東海大学付属高輪台高等学校中等部		東京都港区
	東海大学付属翔洋高等学校中等部		静岡県静岡市清水区
	東海大学付属第四高等学校中等部		北海道札幌市南区
	東海大学付属仰星高等学校中等部		大阪府枚方市
小学校	東海大学付属小学校		静岡県静岡市清水区
幼稚園	東海大学付属幼稚園		静岡県静岡市清水区
	東海大学付属本田記念幼稚園		神奈川県伊勢原市
	東海大学付属自由ヶ丘幼稚園		福岡県宗像市
	東海大学付属かもめ幼稚園		熊本県熊本市中央区
海外法人	ハワイ東海インターナショナルカレッジ		アメリカ合衆国ハワイ州
提携校	東海大学山形高等学校 (別法人)	全日制	山形県山形市
	東海大学菅生高等学校 (別法人)	全日制	東京都あきる野市
	東海大学菅生高等学校中等部 (別法人)		

入学定員及び学生数の状況

2014年5月1日現在

学校名	区 分		入学定員	収容定員	現員	
東 海 大 学	学部計		6,755	27,626	29,025	
	文学部		930	3,720	4,142	
	観光学部		200	795	926	
	政治経済学部		450	1,800	2,025	
	経営学部		230	460	423	
	総合経営学部		0	400	242	
	法学部		300	1,200	1,324	
	教養学部		330	1,320	1,498	
	国際文化学部		260	990	870	
	理学部		320	1,280	1,485	
	情報理工学部		200	800	882	
	情報通信学部		320	1,280	1,481	
	工学部		1,460	5,840	6,171	
	芸術工学部		0	160	19	
	基盤工学部		140	280	261	
	産業工学部		0	600	143	
	海洋学部		530	2,120	2,140	
	生物理工学部		0	200	121	
	生物学部		140	420	494	
	農学部		230	920	1,041	
	体育学部		440	1,680	1,940	
	医学部		115	671	671	
	健康科学部		160	690	726	
	乗船実習課程		30	30	17	
	別科日本語研修課程		200	200	58	
	実務法学研究科		30	90	14	
	大学院計		592	1,353	1,022	
	総合理工学研究科		博士課程	35	105	51
	地球環境科学研究科		博士課程	10	30	4
	生物科学研究科		博士課程	10	30	10
	文学研究科		博士課程（前期）・修士課程	44	80	60
			博士課程（後期）	18	54	15
	政治学研究科		博士課程（前期）	10	20	1
			博士課程（後期）	5	15	1
	経済学研究科		博士課程（前期）	10	20	3
			博士課程（後期）	5	15	0
	法学研究科		博士課程（前期）	10	20	1
			博士課程（後期）	5	15	1
	人間環境学研究科		修士課程	10	20	21
	芸術学研究科		修士課程	8	16	22
	国際地域学研究科		修士課程	4	8	6
	理学研究科		修士課程	32	64	81
	情報通信学研究科		修士課程	30	60	52
	工学研究科		修士課程	184	360	473
	産業工学研究科		修士課程	24	48	4
開発工学研究科		修士課程	0	26	6	
海洋学研究科		修士課程	40	80	28	
理工学研究科		修士課程	6	18	1	
農学研究科		修士課程	12	24	26	
体育学研究科		修士課程	15	25	38	
医学研究科		修士課程	10	20	20	
		博士課程	35	140	68	
健康科学研究科		修士課程	20	40	29	

学校名	学科名	入学定員	収容定員	現員
東海大学短期大学部	学科計	200	400	369
	食物栄養学科	100	200	148
	児童教育学科	100	200	221
東海大学医療技術短期大学	看護学科	80	240	262
東海大学福岡短期大学	学科計	200	400	160
	情報処理科	100	200	39
	国際文化学科	100	200	121

区分	学校名	区分	入学定員	収容定員	現員
高等学校	東海大学付属浦安高等学校	全日制	370	1,110	1,226
	東海大学付属望星高等学校	通信制	1,000	3,000	1,784
	東海大学付属相模高等学校	全日制	600	1,800	1,819
	東海大学付属高輪台高等学校	全日制	420	1,260	1,275
	東海大学付属翔洋高等学校	全日制	360	1,080	730
	東海大学付属熊本星翔高等学校	全日制	400	1,200	1,368
	東海大学付属第三高等学校	全日制	360	1,080	819
	東海大学付属第四高等学校	全日制	320	960	728
	東海大学付属第五高等学校	全日制	320	960	853
	東海大学付属仰星高等学校	全日制	400	1,120	1,120
東海大学付属望洋高等学校	全日制	370	1,110	978	
中学校	東海大学付属浦安高等学校中等部		120	360	378
	東海大学付属相模高等学校中等部		160	480	501
	東海大学付属高輪台高等学校中等部		80	240	255
	東海大学付属翔洋高等学校中等部		120	360	350
	東海大学付属第四高等学校中等部		0	160	61
	東海大学付属仰星高等学校中等部		120	360	266
小学校	東海大学付属小学校		60	360	144
幼稚園	東海大学付属幼稚園		65	165	74
	東海大学付属本田記念幼稚園		60	240	190
	東海大学付属自由ヶ丘幼稚園		80	320	318
	東海大学付属かもめ幼稚園		110	330	321

※小・中学校は学則定員、幼稚園は認可定員を記載しております。

役員の状況

《 役員 》

2014年5月1日現在

	氏名	兼務の状況	常勤・非常勤の別
理事数 現員 20名	(理事長)	松前達郎 (学)東海大学総長、(学)国際武道大学理事長、(学)東海大学甲府学園理事	常勤
	(副理事長)	松前義昭 (学)東海大学副総長、東海大学情報技術センター所長、(学)国際武道大学副理事長	〃
	(常務理事)	高野二郎 (学)東海大学副総長、東海大学学長	〃
		蟹江秀明 (学)東海大学甲府学園理事	〃
		安達建夫 東海大学副学長(事務担当)、同事務部部长	〃
		杉一郎 (学)東海大学初等中等教育部部长	〃
		田中康夫 東海大学副学長(企画担当)、(学)鶴嶺学園理事	〃
		後藤俊郎 (学)東海大学理事長室室長	〃
		橋本敏明 (学)東海大学高等教育部部长	〃
		野田雅一 (学)東海大学人事部部长	〃
		江間淳二 (学)東海大学財務部部长	〃
	(理事)	灰田宗孝 東海大学医療技術短期大学学長	〃
		大金真人 東海大学付属相模高等学校・中等部校長	〃
		遠藤武人 (学)東海大学甲府学園理事長	非常勤
		後藤亘 東京メトロポリタンテレビジョン(株)代表取締役会長	〃
		平山正剛 弁護士、(学)国際武道大学理事	〃
		尾郷良幸 (株)霞ヶ関東海倶楽部代表取締役社長、(学)国際武道大学副理事長、(学)調布学園理事	〃
		兼弘法子 (学)東海大学評議員	〃
		幕内博康 東海大学医学部付属病院本部本部長	常勤
山下泰裕 東海大学副学長(スポーツ・社会連携担当)、東海大学スポーツ教育センター所長	〃		
監事数 定数2~4名/現員3名	(監事)	横堀禎二 (学)東海大学甲府学園監事(非常勤)	非常勤
		淵上貫之 弁護士	〃
		木本雄一 (学)東海大学甲府学園理事	常勤

《 評議員 》

(評議員) 42名 (2014年5月1日現在)

教職員数

2014年5月1日現在

	教員	職員
法人	10	61
大学	1,906	929
短期大学	68	34
高校	561	57
中学校	114	5
小学校	20	1
幼稚園	47	4
病院	0	3,070
合計	2,726	4,161

2014 年度事業の概要

1. 高等教育機関

【将来構想の立案と実践】

2014年度は、札幌校舎再編がスタートより3年目を迎え、熊本校舎再編がスタートより2年目を迎えた年度でした。三大学統合（2008年度）に始まった高等教育機関の再編の検証を行うとともに、引き続き、学部及び大学院の再編並びに短期大学部及び福岡短期大学の再編に向けた計画の検討を行いました。

1. 文部科学省への書類提出について

A. 2015年度学生募集停止（専門職大学院）

実務法学研究科実務法律学専攻の募集停止に関する件について、書類の作成及び文部科学省へ提出を行いました。

B. 2015年度教職課程認定申請（学科）

2015年度より、健康科学部看護学科において「養護教諭一種免許状」の取得が可能となるよう大学と連携し、書類の作成及び文部科学省へ提出しました。提出後、認定の可否について文部科学省の審査を受け、認定されました。

C. 芸術工学部の授業開講校舎の変更

2014年度から、芸術工学部の授業開講校舎について、旭川校舎から札幌校舎へ変更されることに伴い、校地・校舎の変更に関する届出書類を、事務部ファシリティ課が中心となり作成し、文部科学省へ提出しました。

2. 一貫教育体制検討プロジェクトについて

A. 静岡地区一貫教育体制検討プロジェクト

静岡（清水・柚木）地区に所在する教育機関（幼・小・中・高・短・大）が地域に根差した教育機関として、将来においても学生・生徒・児童・園児募集が順調に行われる教育機関にするために、静岡地区を中心とした一貫教育体制のモデルケースを、2013年度に引き続き構築していく議論を進めました。また、短期大学部の将来計画に基づき、校舎新築を含む教育再編や「望星丸」を始め、施設の共同利用についても検討しました。

B. 札幌地区一貫教育体制検討プロジェクト

札幌校舎における大学と付属第四高等学校との一貫教育体制を構築するため、2013年度に引き続き、プロジェクト内の各部会において検討を進めました。

C. 熊本地区一貫教育体制検討プロジェクト

同一地区の一貫教育体制を整備・充実させ、その上で全学的な連携につなげていくために、全ての教職員が創立者の意志を汲み取り、保護者や地域から、安全で安心、信頼できる教育機関となることを目的としてプロジェクトを立ち上げました。

D. 福岡地区教育機関連絡協議会

福岡地区における幼・高・短の一貫教育体制を構築するため、2013年度に一貫教育体制や連携に関する事項を検討する連絡協議会が設置されました。2014年度は引き続き、各学校の校地が近接している利点を活かし、3つの教育機関（総称：福岡東海キャンパス）が更に連携し、協議会のもとに設置した5つのプロジェクトによる活動を強化しました。

3. 短期大学（部）の再編等について

A. 短期大学部

静岡地区一貫教育体制検討プロジェクトにおいて、短期大学部の将来計画、特に校舎新築計画に関して検討を進めました。

B. 医療技術短期大学

入学定員確保及び医学部附属4病院への看護師供給を継続して実行しました。また、看護系教員の安定した採用を目指す方策の検討を開始しました。

C. 福岡短期大学

学生募集の現状を見極め、福岡地区における福岡短期大学の改革を推進するにあたり、附属第五高等学校及び附属自由ヶ丘幼稚園と連携を強化しました。

「福岡地区教育機関連絡協議会」においても議論を重ね、福岡短期大学の将来構想について検証を行いました。

【その他高等教育機関における主な活動】

1. 男子柔道部が学生団体戦2冠達成

湘南校舎の男子柔道部は、2014年6月28日、29日に開催された全日本学生柔道優勝大会と2014年10月25、26日に開催された全日本学生柔道体重別団体優勝大会でそれぞれ優勝し、学生団体戦2冠を達成しました。全日本学生柔道優勝大会では前人未達の7連覇を果たし、最多優勝回数を20に更新しました。全日本学生柔道体重別団体優勝大会では2年ぶり（8回目）の王座に返り咲きました。



2. 南米唯一のソーラーカーレース「Carrera Solar Atacama」で優勝

東海大学チャレンジセンターのライトパワープロジェクト・ソーラーカーチームは、南アメリカ唯一のソーラーカーレース「Carrera Solar Atacama」（大会期間：2014年11月13日～17日）に出場し、全行程1,082kmを15時間20分で走破。走行中にパーツが破損するアクシデントを乗り越え、初参加で優勝を果たしました。

3. 硬式野球部が全日本大学野球選手権大会で優勝

湘南校舎の硬式野球部は、2014年6月10日から15日まで開催された第63回全日本大学野球選手権大会で、13年ぶり4回目の優勝を果たしました。創部50周年の節目となる今季は、首都大学野球春季リーグ戦で14戦全勝しました。本大会でも勢いそのままに勝ち進み、無敗で日本一に輝きました。



4. 吹奏楽部研究会が全日本吹奏楽コンクールで3年連続の金賞を受賞

湘南校舎の吹奏楽研究会は、2014年10月18日に開催された第62回全日本吹奏楽コンクール（大学の部）に出場し、3年連続の金賞を受賞しました。4年連続7回目の出場となった同研究会は、課題曲「きみは林檎の樹を植える」（谷地村博人作曲）と自由曲「輪廻の八魂」（樽屋雅徳作曲）を演奏しました。

5. 「公開セミナーLet's 不思議！」50回記念で松前義昭理事長が講演

九州キャンパス（熊本校舎、阿蘇校舎）は2014年9月13日に「公開セミナーLet's 不思議！」（熊本日新聞社と共催）を熊本校舎で開催しました。1994年に九州東海大学開学30周年を記念して始まった本セミナーは50回の節目を迎えました。これを記念して「九州における熊本の高等教育機関の使命～創立者松前重義博士の教育理念を通して～」をテーマに、松前義昭理事長・副総長による講演が行われ、また、松前理事長と東海大学の中嶋卓雄学長補佐（九州キャンパス担当・基盤工学部長）、熊本日新聞社の丸野真司編集局長による鼎談も実施しました。



6. マイクロ・ナノ研究開発センターが講演会を開催

文部科学省が実施する「平成26年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された本学の研究プロジェクト「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」（研究代表者＝理学部物理学科・喜多理王教授）の採択を受け、2014年9月24日に湘南校舎18号館サイエンス・フォーラムで「マイクロ・ナノ研究開発センター第1回講演会」を開催しました。新規採用された3名の特定研究員がそれぞれの取組みを紹介し、プロジェクトメンバー間の研究交流推進を目的に実施しました。2015年2月12日には第2回講演会を開催しました。

7. スキー部がインカレ男子総合で4連覇を達成

札幌校舎のスキー部は、2015年2月25日から3月2日まで開催された第88回全日本学生スキー選手権大会に出場しました。男子は総合で優勝を果たし4連覇を達成しました。女子は総合で3年ぶりに過去最高順位となる準優勝となりました。

【競争的資金などの獲得による教育研究の推進】

1. 文部科学省「地（知）の拠点整備事業」

To-Collabo プログラムによる全国連動型地域連携の提案

【東海大学：2013年度採択】

本取組みは、全国にキャンパスが広がる本学ならではの「全国連動型地域連携活動」を柱に、地域特有の課題や全国共通の課題を全ての教職員・学生が共有し、協力して解決策を見出す取組みです。この活動を通して、「大学共通教養科目の改革」を教育改革計画の中心に据え、地域の課題に取り組む能力を培う「パブリック・アチーブメント（※）型教育」を取り入れた全学的なカリキュラム改革と組織改革を実施していきます。

2014年度は、連携地域として新たに本学高輪校舎所在地の港区と包括協定を結びました。本事業での連携自治体は港区の他、札幌市南区、伊勢原市、平塚市、秦野市、大磯町、静岡市、熊本市、南阿蘇村の全9自治体となりました。

また、昨年度に引き続き、To-Collabo 市民セミナーを開催した他、湘南校舎の最寄り駅である小田急線東海大学前駅前にあるサテライトオフィスでは地域連携セミナーとして、教員の取組みに関する講座の他、在籍する留学生を講師として自国の文化等を紹介するグローバルカフェ講座を開催し、地域への知の還元に努めました。

教育面では、地域志向教育研究経費の課題として教員が学生とともに取り組んだ課題の他、2017年度にパブリック・アチーブメント型教育を導入することを見据え、教職員8名の研修団をパブリック・アチーブメントが実践されている米国に視察のため派遣しました。帰国後は全学でのパブリック・アチーブメント型教育に関するFD研修会を開催する等、新科目開講に向けた準備を着実に進めています。

地域志向教育研究経費では32件の課題を採択しましたが、今年度からは、校舎や組織を横断した連動型の取組み課題枠を設けて公募するなど、昨年度に比べ、本学の全国スケールでの取組みを活かしたものとしました。中間報告会は熊本校舎で開催し、熊本県・熊本市等の自治体や企業、マスコミからも多くの来場者があり、本学の取組みについて周知・報告することができました。

※パブリック・アチーブメント・・・立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う市民運動の中で、若者が社会活動を通して民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそのための組織と学習



2. 文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

高度がん医療開発を先導する専門家の養成

【東海大学医学研究科（共同事業）：2012年度採択】

本取組みは基礎研究とトランスレーショナル研究（TR）を推進し、新たな治療を開発できるシステムの構築と、それを実際に行う能力を持つ人材を育成することを目的としています。さらに、がん患者のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）を向上するための様々なアプローチとそれを実行するための人材育成、そして患者のみならず家族や医療者に対する精神的な支援、地域間での医療資源量及び質の格差の是正など、がん医療が高度化することによって新たに生じる問題を解決することも、重要なミッションとして掲げています。慶應義塾大学を申請代表として、10大学15研究科が参画し進めています。

2014年度も引き続き、本事業の横断的テーマである、TRの促進、がん患者や家族のQOLの向上、地域間格差の解消を目指して、各研究科に、大学院コース及び各種インテンシブコースを開講、実施しました。また、本学主体の連携事業である「大学・職種横断的最先端放射線治療コース（インテンシブコース）」において、筑波大学 e-Learning クラウドシステムの教材コンテンツを更に構築しました。

さらに、米国シアトルのフレッドハッチンソン癌研究センターの支援を受け、最先端の外來管理のノウハウを取り入れ、わが国初の「造血細胞移植患者長期フォローアップ外來」を開設しました。ほかにも、医療従事者向けのがんに関するシンポジウムや講演会での発表、本学医学研究科主催の第1回「がん治療の最前線」講習会も開催しました。

3. 文部科学省「国際原子力人材育成イニシアティブ」

原子力国際基準等を基盤とした多層的な国際人材育成

【東海大学：2013年度採択】

本取組みは、企業等関連機関と連携して原子力に関する2つの教育システムを構築し、原子力やリスク管理に関する知識を身に付けた人材育成を行う取組みです。具体的には、国際基準等に関する深い知見を有する国際原子力人材の育成を目的とした『国際原子力専門教育』と、リスク管理に関する基本的な素養を身に付けた人材を育成することを目的とした『原子力・リスク管理基盤教育』の教育システムを構築しています。

2014年度も引き続き、『国際原子力専門教育』では原子力工学及び関連工学を専攻する学生（学部及び大学院）と企業・機関等で原子力関係業務に従事する者を対象に、高輪校舎で2月に2泊3日の英語による集中講義を行い、学生・関係業務従事者合わせて80名が参加しました。

『原子力・リスク管理基盤教育』では2013年度に行った授業研究会の検討内容をもとに、文理共通科目（文理融合科目）として「テクノロジーと社会」を新設、春学期は工学部対象、秋学期は教養学部、医学部、健康科学部対象に開講し、合わせて265名（春163名＋秋102名）が履修しました。また、フォローアップのための授業検討会も行いました。

4. 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化

【東海大学短期大学部（共同事業）：2012年度採択】

本取組みは、中部圏 23 大学（5 短期大学を含む）が、アクティブラーニングを活用し、地域・産業界との連携強化を通して、教育機関として自ら前に踏み出し、考え抜き、チームで働き、チャレンジすることで教育改革力の向上を図るものです。個々の大学は、それぞれの教育使命や地域に立脚した方法で、(1)アクティブラーニングを活用した教育力の強化、(2)地域・産業界との連携力の強化、という 2 つのテーマに基づいた教育改善を行います。次に、4 チームに編成されたチーム内での連携 FD（研修会）により、成果や課題を共有します。さらに、それらの成果などを中部圏産学連携会議において検証するという三段階方式の取組みを行います。このうち、静岡チーム 4 大学（静岡大学、静岡理工科大学、静岡英和学院大学短期大学部、東海大学短期大学部）は、静岡県を舞台として、教育力の向上、産業界との連携力の強化を図り、現在、地域社会や産業界から求められている有為な人材の育成を積極的に行います。

取組み最終年度となる 2014 年度も前年度に引き続き、静岡チームの 1 校として、アクティブラーニングによるワークショップ、授業、インターンシップの実施、また教員対象の FD 研修会等を積極的に展開し、地域社会、産業界から求められる豊かな人間性と幅広い社会性、そして着実な専門性を身に付けた人材の育成を行いました。また、これらの学びを学生が客観的に捉え、自己の能力向上をより図ることができるように、面談カウンセリングや異段階交流を軸としたリフレクション（振り返り）プログラムを実施するとともに、その成果と課題についてのアセスメント（評価）プログラムを実施し、本取組みで学んだ学生が自発的かつ継続的な学びを積極的に展開できるよう、取組み全体の一層の向上を図りました。また、3 年間の取組みに関する総括シンポジウムにおいて成果と課題を確認し、取組み終了後も、地域社会や産業界から高く評価される有為な人材の継続的な育成に向けて積極的に活動を進めていくことを確認しました。

5. 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

【テーマB】インターンシップ等の取組拡大」

中部圏における産学連携教育（インターンシップ）の推進と普及

【東海大学短期大学部（共同事業）：2014 年度採択】

本取組みは、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の選定を受けている大学・短期大学を中心に形成された大学グループが、地域でインターンシップ等のマッチングを行う経済団体、大学団体、自治体及び NPO 法人等と連携し、インターンシップ等の拡大を図ることで、地域全体へのインターンシップ等の普及・定着を図るとともに、大学等におけるキャリア教育の充実を図り、2015 年度以降の卒業・修了予定者に対する就職・採用活動の後ろ倒しへの円滑な移行を目指すことを目的として実施されるものです。本学は静岡チーム 5 大学（静岡大学、静岡理工科大学、静岡英和学院大学短期大学部、東海大学短期大学部、常葉大学）の 1 校として、中部ブロックの取組み「中部圏における産学連携教育（インターンシップ）の推進と普及」に参加しました。

2014 年度は、(1)産学連携教育の考えに基づき、インターンシップについての研究会を組織し、インターンシップを推進するために大学に配置するべき専門人材のあり方について検討しました。(2)静岡チームにおいては、大学、企業、経済団体、行政機関、教育機関等が参加するインターンシップ推進組織を設立し、インターンシップに関するシンポジウム、

情報交換会，研修会の開催を通して，各企業や大学が抱えるニーズとシーズを把握し，産学連携教育としてのインターンシップの検討，大学と企業の連携によるアクティブラーニング型授業及び課題解決型授業実施に向けた検討を行いました。

6. 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

がん幹細胞ニッチを標的とした新規治療法の開発

【東海大学：2012年度採択】

本事業は，がんの維持と進展にかかわるがん幹細胞ニッチを標的とした新規治療法の開発を行うもので，具体的には，①がん幹細胞のニッチからの離脱を促す PAI-1 阻害薬，②ニッチ構成分子である Notch ligand を標的とした創薬，③新規がん幹細胞分子を標的としたペプチドワクチン療法の開発，④新規治療標的分子の探索を目指しています。本研究により，がんの発症，進行，再発の機構を明らかにし，創出される新規治療は，がんの治療，進展の制御によりがん患者のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）を向上させ，国民の健康福祉に貢献できると期待されています。

2014年度も本事業発展のため，学内のがん研究，幹細胞ニッチ，血管新生の専門家を集約したグループにより，5つの研究プロジェクト（血液腫瘍，乳癌骨転移，婦人科癌，消化器癌と血管ニッチ，Notch ligand）において，研究及び若手研究者の育成を行いました。また，研究論文や図書，2014年10月に行われた第76回日本血液学会総会での学会発表等で，これらの研究成果を学外に発信しました。

また，今年度は採択3年目につき，文部科学省による中間評価も実施され，高い評価を得ました。

7. 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

高分子超薄膜から創成する次世代医用技術

【東海大学：2014年度採択】

本事業は，総合大学である特色を生かし，分野横断的な研究者の連携による知と技とエネルギーを集結することで，本学の新たな研究拠点を形成し，科学・技術の発展への貢献と，健康で安全な社会形成のための要素技術構築を目的としています。具体的には，機能性高分子超薄膜（膜厚が100ナノメートル以下）に着目し，高分子を超薄膜に加工することで顕在化する「面をもつ構造」ならではのユニークな特性を利用し，医用技術へ応用していきます。本事業では，次世代医用技術開発に留まらず，この過程で得られる知見や成果は再生医療，診断機器開発，薬剤スクリーニングや細胞病理などへの波及，多分野との連携や若手研究者等の算入を広く促進し，博士研究員・リサーチアシスタント・学生らがこのような体制の中で研究を行うことにより，グローバルに活躍できる研究人材の育成効果が期待されています。

採択初年度である2014年度は，本学の新たな研究拠点として，2015年1月に「マイクロ・ナノ研究開発センター」を開設し，培養室，クリーンルーム，恒温恒湿室，化学実験室などの実験設備に加えて，研究者同士が意思の疎通を図り，連携を深めるためのコミュニケーションエリアを設けました。

また，多分野のプロジェクトメンバー間の研究交流推進等を目的とした講演会や，プロジェクト参加教員による研究紹介，これまでの成果を紹介するセッションを行うキックオフセ

ミナーを開催しました。

8. 文部科学省「科学技術振興調整費 若手研究者の自立的な研究環境整備促進プログラム」

国際的研究者を育て得るメンター研究者養成

【東海大学：2010年度採択】

本事業は、先端分野における国際的研究を行う能力に加え、自らをロールモデルとした後進の研究者を育成するメンターとなりうる人材養成を行うものです。テニュアトラックの期間は創造科学技術研究機構に属し、理想的な環境の中で自己能力の発展に邁進し、テニュア取得後は、学部・研究科に所属しつつ、大学奨励教員として本学に特徴ある研究を通じて次世代育成のための環境作りに貢献します。本事業を契機として全学的システム改革を行い、私立大学における若手研究者育成のモデルを目指します。

最終年度となる2014年度は、理工系テニュアトラック教員1名に対して中間評価を実施し、医学部門テニュアトラック教員1名が2014年4月に医学部講師として専任採用されました。さらに、2015年度には医学部門テニュアトラック教員1名、理工系テニュアトラック教員1名の計2名が准教授として専任採用されることが決定しています。また、理工系テニュアトラック教員1名が2014年4月に高度な研究開発能力を有する若手研究者を対象とした「平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞」を受賞しました。

他にも、2015年1月には、下記(9)『科学技術人材育成費補助金 テニュアトラック普及・定着事業』とともに、「第5回東海大学テニュアトラック制度シンポジウム」を2日間に渡り高輪校舎にて開催し、教職員や研究者、学生など多くの参加者がありました。1日目はテニュアトラック教員を経て専任教員となった2名の研究者の現在の状況、現在任期中のテニュアトラック教員8名の研究進捗状況発表、2日目には同シンポジウムの一環として本学テニュアトラック教員のほか、他大学の研究者ら6名が研究成果を発表し、活発な意見交換を行いました。

本事業の公的支援は今年度で終了となりますが、今後も任期中のテニュアトラック教員の支援を継続していく予定です。

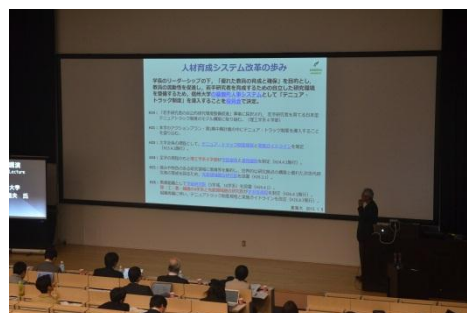
9. 文部科学省「科学技術人材育成費補助金 テニュアトラック普及・定着事業」

【東海大学：2012、2013年度採択】

本事業は、研究活動の重点化施策を進め、戦略的な研究分野を確立するために「若手研究者の自立的な研究環境整備促進プログラム」で確立してきた制度を医学から理工学、さらに他学部へ展開することを目的としています。なお、本事業は2012年度、2013年度両年度で採択されています。

2012年度採択分において、物音響学分野の教員1名が、2014年12月に社団法人日本オーディオ協会第19回「音の匠」を受賞しました。また、2015年2月には同教員の企画による国際シンポジウムを開催しました。

2013年度採択分において、医学部門の分子神経生物学分野の教員1名に加え、工学部門で外国籍の高度光通信研究分野の教員1名が2014年4月に着任し、2014年6月に湘南校舎に



て着任セミナーを開催しました。

2014年度は、国際シンポジウムや上記(8)『国際的研究者を育て得るメンター研究者養成』とともに、2015年1月に「第5回東海大学テニュアトラック制度シンポジウム」を2日間に渡り開催しました。

10. 科学技術振興機構公募事業「地球規模課題対応国際科学技術協力事業」

カメルーン火口湖ガス災害防止の総合対策と人材育成

【東海大学：2010年度採択】

カメルーンでは1980年代のニオス湖とマヌン湖での湖水爆発後、ガス災害の再発が懸念されています。湖水爆発を防止するために、湖に溶存しているガスを人為的に除去する作業が進められていますが、マグマからのCO₂の供給速度やCO₂の除去量を見積もるためのモニタリングは行われておらず、湖水爆発のメカニズムの詳細についても解明されていない状況です。

本研究では、両湖で湖水に関する地球化学的研究を行い、CO₂流動系と噴火履歴解明を進めるものです。更に湖水爆発の数値シミュレーションを行い、爆発メカニズムを解明することで、湖の監視体制の確立や防災に向けた総合対策の提案を図るものです。これらの共同研究を通じて、カメルーンの研究員のキャパシティ・ビルディングを図り、両湖のガス災害を予測するために、湖の観測・研究を継続・発展できる体制の確立を目指します。

本学の他、国内の5大学と共同で研究を進めています。2014年度も順調に取り組み、CO₂濃度の変化を定量的に観測し、ニオス湖に自動観測ブイを設置しました。この装置は水深4, 120, 160, 200, 204mで水温と電気伝導度を測定し、そのデータをイリジウム衛星経由でインターネットを通じ日本とカメルーンに配信するものです。これによりニオス湖の状況をリアルタイムで把握することが可能となり、ニオス湖周辺の避難民帰還事業に貢献しました。2014年11月にマヌン湖においてマルチビームソナーで湖底地形の探査を行い、その結果、CO₂を放出した痕跡と思われる窪みを2ヶ所で確認しました。このことはマヌン湖で過去に2回以上の湖水爆発が起きていたことを示唆しており、極めて重要な発見です。

また、カメルーンからの留学生を本学他、国内の大学に博士課程で受け入れており、人材育成に寄与しています。カメルーンからの留学生のうち、本学で受け入れた2名が2014年9月に博士(理学)を取得しました。2015年3月には、本学、富山大学、東京工業大学で受け入れていた留学生がそれぞれ1名ずつ博士(理学)を取得しました。2015年9月には最後の留学生が富山大学で博士(理学)の学位を取得する予定です。

2014年7月には札幌でAOGS(アジア太平洋地球物理学会)大会が開催され、研究代表者が火口湖セッションの議長を務め、カウンターパートの研究所から3名の研究員を招聘し研究発表しました。このように人材育成は極めて順調に進行しています。

11. 科学技術振興機構「戦略的創造研究推進事業(「さきがけ」)」

がん細胞由来小分子RNAによる炎症細胞の制御

【東海大学：2012年度採択】

本事業は、独立行政法人科学技術振興機構(JST)による支援事業で、我が国が直面する重要な課題の達成に向けた基礎研究を推進し、科学技術イノベーションを生み出す創造的な

新技術を創出することを目的としています。事業概要としては、JST が社会的・経済的ニーズを踏まえ、国が定めた方針に基づいて研究領域を設定し、大学・企業・研究開発独立行政法人など多様な組織の枠を超えた時限的な研究体制（バーチャルネットワーク型研究所）を構築します。科学技術イノベーションにつながる新技術シーズの創出を目指した課題達成型基礎研究を推進するものであり、JST が推進すべき研究領域と研究領域の責任者（研究総括）を定め、研究提案（研究課題）を領域ごとに募集し、総括が領域アドバイザーらの協力を得ながら選考します。「さきがけ」は研究領域のもとで研究者が個人で研究を推進します。

本研究課題が採択された研究領域「炎症の慢性化機構の解明と制御」（研究総括：高津聖志 富山県薬事研究所所長）は、戦略目標を「炎症の慢性化機構の解明に基づく、がん・動脈硬化性疾患・自己免疫疾患等の予防・診断・治療等の医療基盤技術の創出」と掲げています。

EB ウイルス（EBV）が引き起こすがんでは、ウイルス感染に伴う炎症ががん発生に深く関与します。炎症細胞がないと腫瘍細胞は生存できません。元来ウイルス感染細胞を排除しようと集まった炎症細胞が、いつの間にかウイルス感染がん細胞を支持するように変化しますが、その原因はいまだ明らかではありません。本研究では、新しい細胞間コミュニケータである「分泌性小分子 RNA」からそのメカニズムの解明を試みます。

2014 年度も引き続き、本事業の発展のための取組みを推進し、第 35 回日本炎症・再生医学会や ASH Lymphoma Meeting 等に参加し、研究成果を報告しました。

【研究推進・産官学連携・知的財産活動】

総合研究機構は 1976 年 4 月、研究面の強化、研究レベルの向上等を目的に本法人のもとに設置し運営してきましたが、2014 年度から総合研究機構の運営は、東海大学に移管されました。移管により 2014 年度総合研究機構の施策は、新体制でスタートした総合研究機構運営委員会（2014 年 6 月 17 日・12 月 2 日開催）の承認を得て実施しました。

以下、総合研究機構の施策及び研究推進・産官学連携・知的財産活動について報告します。

1. 総合研究機構の施策

「プロジェクト研究」は、総合研究機構の重点施策として、学園の多様な分野間での連携・融合による特色ある研究プロジェクトを戦略的・重点的に推進するために実施しています。本施策は、2009 年度から公募制を取り入れ、研究費補助金により 3 種類（大型 1,000 万円以上、中型 300 万円以上～1,000 万円未満、小型 300 万円未満）に分け、研究期間は、原則 3 か年度としています。

2014 年度新規公募は、大型・中型・小型を合わせて数件採択する内容で募集しました。28 件（大型 4・中型 14・小型 10）の応募があり、大型 1 件、中型 5 件、小型 1 件を採択しました。（新規採択金額 3,288 万円）

また、継続分については、大型 1 件・中型 7 件・小型 1 件（金額 4,562 万円）を採択しました。継続採択 9 件については、2015 年度の継続審査を兼ねて「プロジェクト研究」成果発表会（2015 年 3 月 3 日開催）を実施しました。

なお、採択プロジェクトについては、研究の進捗状況等のモニタリングを実施するとともに

に、プロジェクトマネージャーによるフォローアップを行い、大型の競争的資金の獲得につながりました。

「研究奨励補助計画」は、若手及び中堅研究者の育成と研究推進並びに科学研究費を始めとする競争的資金の採択率向上を目的に実施しています。2014年度公募においては、36件の応募があり、18件（金額1,100万円）を採択しました。

「研究スタートアップ支援」は、新規採用の若手教員に対して、本学での研究活動が円滑にスタートできるよう、研究基盤の整備のための資金の一部を支援するもので、応募12件（金額900万円）の全員を採択しました。

「商品開発助成」は、実学・実践の教育・研究による成果を、広く社会に発信・還元することにより、東海大学ブランドのイメージアップと知名度向上を図るもので、応募7件のうち1件（金額72万円）を採択しました。

「研究集会補助計画」は、学会等の開催費用の一部を補助（1件当たり30万円限度）するもので、2014年度は、上期開催分として12件（金額125万円）、下期開催分として19件（金額215万円）に対して補助しました。

「学術図書刊行費補助計画」は、学術研究成果の発表を目的として刊行する学術図書について、その出版費の2分の1を上限として補助するもので、2014年度は応募がありませんでした。

2. 新たな事務組織体制での連携強化と外部資金獲得増の方策

2014年度に向け、『研究支援機能は、湘南校舎・伊勢原校舎に限定して設置し、効率的な運営が可能な所属部署統合を推進する。他の校舎では、事務部の事務課・総務課の担当制とする。』と発信されました。組織が変わっても統括管理責任者のもと、機関として統一業務を行っていくため、2014年5月22日と12月10日に校舎間連絡協議会を実施しました。日常的にも研究推進部を中心として各校舎の業務を取りまとめ、組織変更による業務の停滞は一切なく遂行しました。

また、2014年度から総合研究機構を東海大学に移管するという大きな組織変更が行われる中、2014年度予算編成方針では、外部研究費の一層の獲得増が示され、経費削減の中、研究活力の一層の向上が求められています。

2014年度、研究推進部は、一層のイニシアチブを発揮し、新しい体制の中、各校舎の担当部署と連携を深め、外部研究費の獲得増、資金の適正執行に努めました。

他大学等においては、以上のような研究推進・支援を担当する専門人材として、ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレータ（URA）の雇用・活用が始まっており、成果を上げ始めています。東海大学においてもURAの活用について議論すべき時期にきており、総合研究機構運営委員会においてもその必要性和早期実現が議論されました。

研究費の適正執行については、社会から厳格執行、説明責任が強く求められ、機関として統一的に、適正に執行するよう努めています。更に大学機関に対し、研究計画の実施に伴う法令順守等も一層強まっており、これらに対しても研究推進部が中心となり、研究機関として組織的な取組みを行い、関連部署と連携し法令順守を徹底していく準備を進めました。

一方、大型研究費では、採択要件として、研究者数に対する科学研究費の採択数が機関の研究活力の要素とみなされる傾向が増し、科学研究費採択数の重要性が益々高まっています。

東海大学では、2012年度中期目標としていた教員数に対する科学研究費申請率50パーセントを達成しました。今後は、科学研究費申請を促すだけでなく、科学研究費採択数向上を目指していきます。具体策として、効果を上げているものの一つに、学部長等による科学研究費採択の重要性の啓発及び獲得支援策があり、実際に効果を上げている学部もあります。機関全体として科学研究費獲得数増加を目指すため、研究推進部では、「科研費採択数アッププロジェクト」を立ち上げ、①科研費採択研究計画調書集の継続運用、②科研費研究計画書の書き方をまとめた「科研費虎の巻」の作成(1,000部)と配布、③科研費審査員・採択常連者による研究計画調書の事前チェックの3つを中心に実施しました。これらの効果もあり、新規申請数は2013年度に比べ40件増加の682件となり、採択数の増加に期待します。

3. 「研究の峰の形成」、研究戦略策定と大型研究費獲得の支援

2013年度4月からスタートした研究計画課は、「研究の峰の形成」に向けて、本学の研究力の調査分析、教員の研究活動状況調査を実施しています。更に大型研究費獲得を目指し競争的資金等の情報を収集するとともに、文部科学省のセンター・オブ・イノベーション(COI)プログラムの申請を行いました。

「研究の峰の形成」に向けた研究メンバーの抽出にあつては、教員の研究活動状況の分析を行いました。研究メンバーは、ライフイノベーション、グリーンイノベーション、マイクロナノ技術等の社会的課題研究分野による構成を想定し、既に十分な研究実績を上げている経験豊富な教員と、その可能性に満ちた中堅・若手教員を中心とするメンバーを抽出し、研究担当副学長を中心に本学の研究戦略策定支援に向けた調査分析を行いました。

また、大型外部資金の獲得に向けた研究拠点の形成、研究グループ・チーム等の研究体制作りの支援を行うとともに、外部資金に関する質の高い情報分析と適切なタイミングでの研究者への情報発信及び研究戦略の策定にかかわる会議等のセッティング調整を積極的に推し進めました。

4. 知的財産保護・技術移転活動

知的財産権の維持要否判断に当たり、出願相談、審査請求、権利維持の機会を捉えて発明者との面談を行いました。その結果、研究の進捗状況、発明の自己評価、活用の展望等を確認し、案件ごとの目的に応じた管理、技術移転活動を行いました。また、研究者とともに具体的な技術移転戦略をもつ知的財産の創出に向けた取組みを実施しました。一方、新たな発明相談も数多く寄せられましたが、出願の要否については発明の完成度(状態)を精査し、特許性について慎重に検討を進めました。

厳しい実施契約・技術移転業務において、研究室訪問により得られた情報から戦略的な技術移転活動を展開した結果、目標とした件数を上回る契約の成案(新規実施許諾契約;2件、有償譲渡契約;2件、マテリアル使用許諾契約;1件、オプション契約;2件)を得ました。

2014年4月には、予定されていた実施許諾商品(サプリメント)が上市され、2015年4月には、ソフトウェアが商品化される予定です。出願相談は、37件でした。

【国際活動】

1. 国際交流活動の戦略的企画及び実施について

2014年度は、グローバル化の推進は学園全体の課題との認識のもと、東海大学を中心として学園の教育機関の国際活動を推進しました。

A. グローバル人材育成のためのプログラムの展開

①外国人留学生受入プログラムの充実

短期外国人留学生受入プログラムである Tokai Cool Japan (2014年7月27日～8月7日)と Tokai Cool Japan Technology (2015年1月7日～17日)を実施したほか、カタール政府の要請により短期間の日本語教育特別講座を開講(2015年1月13日～3月27日)し、カタール政府からの派遣留学生5名に対する日本語教育を実施しました。

②派遣留学プログラムの拡充

短期留学プログラムを拡充し英国のサセックス大学、ニュージーランドのオークランド大学を加えました。派遣留学生数は順調に増加しており、応募者数は603名、派遣者数は416名となりました。ともに過去最多です。海外研修航海、学部・学科研修まで加えれば、派遣学生総数は951名となりました。

③附属諸学校の国際交流活動の支援

ロシア連邦のガスプロム附属教育センター訪日団(21名)が2014年10月26日～11月1日の間日本に滞在し、附属翔洋高等学校(2014年10月28日)並びに附属高輪台高等学校(2014年10月29日)を訪問しました。

また、附属高輪台高等学校とタイ王国のチュラポーンサイエンススクール・トラン校並びに附属第五高等学校とマレーシアのセコラ・スリ・ベスタリ校との交流活動を支援しました。

④グローバル人材育成のための奨学金制度の検討

本学の国際関連の奨学金は派遣留学のための「国際交流奨学金」並びに受け入れ留学生のための「留学生奨学金」があります。現在東海大学としてプロジェクトチームを設置し、全ての奨学金プログラムの見直しを進めており、その中でグローバル人材育成のための奨学金制度についても議論がなされています。

B. 積極的な留学生招致政策展開

①数値目標を掲げた留学生募集活動

留学生一般入学試験一期に72名、二期に199名の志願者を得ました。志願者合計271名は過去最多となりました。

②留学生入学制度の改善

2014 年度に実施した 2015 年度留学生入学試験から合格発表を Web 上で掲示するようにしました。インターネット出願を 2017 年度入試からの導入を目指して準備しています。

C. 国際レベルでの研究推進の環境整備

文部科学省国際原子力人材育成イニシアティブ事業（原子力人材育成等推進事業補助金）「IAEA 講師による原子力の国際基準研修」を高輪校舎で実施しました（2015 年 2 月 23 日～25 日）。全国から 25 名の学生，50 名の技術者が参加しました。

D. 国際連携構築のための活動推進

独立行政法人科学技術振興機構（JST）による日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）に応募し，4 件の短期研修プログラムが採択されました。2014 年 10 月から順次実施し，アジア諸国を中心に合計 65 名の学生が参加しました。

また，継続事業として独立行政法人国際協力機構（JICA）関連のアフガニスタン共和国「未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト」（20 名），カンボジア「Japanese Grant Aid for Human Resource Development Scholarship（JDS）」（7 名），国際原子力開発株式会社（JINED）との契約に基づく「ベトナム原子力人材育成プログラム」（9 名）を実施しています。

E. 国際交流のためのインフラ整備

総合情報センターとの協力により，国際会館と L 館（留学生会館）のルーターを更新し，入寮者の通信環境を向上させました。また，国際部の TV 会議システム設備を更新しました。各外地機関においても順次設置・更新していく計画です。

F. 国際広報の強化・充実

2014 年 5 月 25 日～30 日に米国サンディエゴで開催された国際教育交流協議会（NAFSA）に外国語教育センター吉成雄一教授とハワイ東海インターナショナルカレッジ（HTIC）のスタッフが参加しました。

G. 外地機関の再構築

東海大学パシフィックセンター・ハワイ東海インターナショナルカレッジ（HTIC）の新キャンパス移転を推進しました。また，東海大学ヨーロッパ学術センター並びに海外連絡事務所ウィーンオフィス運営体制の変革に着手し，2015 年度から新体制での運営を開始します。

2. 初等中等教育機関

【教育力向上の推進と諸制度の充実】

1. 教育改革・授業改革の実践について

A. 付属推薦入試

初等中等教育部では、各校との連携を密にとり、付属推薦制度を改変しながら時代に即応した体制を整えてきました。

付属推薦で進学する生徒を早期に確保するのは、全国的なAO入試の早期化等の外的要因に対応するとともに、優秀な付属推薦入学者を早期に多数確保し、東海大学入学者のレベルを維持・向上させる目的をもちます。さらに、東海大学一貫教育体制の指導を受けた付属生は、東海大学での学生生活を充実させる牽引役として活躍することも求められています。そこで付属推薦候補者決定後の学習指導だけでなく、高等学校入学から卒業までの日頃の学習活動や部活動について、より効果的な指導プランを検討し、実施してきました。

また、その動きに呼応するように、大学の付属推薦に対する取組みも変化してきています。付属高等学校と大学の更なる連携を図るために、高大連携運営委員会や各専門部会等を設置し、高大で一貫性のある入学前教育と大学入学後の初年次教育等を検討しました。その結果、早期化に対応した「個別指導課題1」、課題1の結果を持参して大学教員が各付属校に出向いて行う「巡回指導」、課題1を発展させた内容の「個別指導課題2」、英語などの内容を充実させ全ての学部・学科で実施可能となった「e-Learning」、高校在学中の早期単位履修が可能な「体験留学」など、付属高等学校から大学入学までの移行期間における高校生活を、文武両面において幅広く充実したものとする工夫を重ねました。今後も大学の理解と協力を得て、より一貫性のある入学前教育を充実させてまいります。

B. 特色ある幼・小・中・高から大学への一貫教育の確立と生徒募集

2015年度の園児・児童・生徒の募集については、厳しい状況の中にも各校の不断の努力により徐々に回復傾向にある学校も多くなりました。特に中等部入試は入試日程・回数・即日発表等の改善を実施していますが、各地域での生き残りが喫緊の課題です。

高等学校では、付属浦安高等学校、付属相模高等学校、付属高輪台高等学校、付属静岡翔洋高等学校、付属熊本星翔高等学校、付属第三高等学校、付属仰星高等学校及び付属望洋高等学校等の8校が募集定員を上回る入学者数となり、順調な結果でした。他方、付属第四高等学校、付属第五高等学校等は募集定員を若干下回りましたが増加しており、ほぼ定員どおりであり改革の結果が実際の数となって表れています。全体的にもほぼ計画どおりの募集ができており、大胆な改革と地道な募集活動が着実に結果に結びついています。

大学校舎と隣接する札幌地区や静岡地区、熊本地区、福岡地区の付属校園では、教育だけでなく部活動や施設設備など多岐に渡って密接な連携をとることが重要であり、「一

貫教育体制検討プロジェクト」が中心となり、より具体的な一貫教育を確立し実践・継続しています。またスポーツに限らず、様々な活動において地域との綿密な連携を図り、保護者や地域から、安全で安心、信頼できる教育機関となるよう、教職員が一丸となり、より一層の努力をしています。

「学校週6日制」についても、全付属校園が対応できるよう準備を開始しました。2014年度からは付属高輪台高等学校・中等部が完全学校週6日制に移行し、2015年度から実施が2校、2016年度から実施予定が5校です。また「3学期制」への回帰については、2015年度から実施が1校、2016年度から実施予定が5校です。

それぞれの校園が「東海大学の付属」であることと「特色ある教育」により地域で評価される校園として成長し、安定した健全経営が可能となるよう継続して教育改革を行うとともに、中高では、「文武両道」を旗印に一層の飛躍に期待しています。

C. 教科研究授業への取組み

学園教科モデル校等によって各校に定着した公開研究授業を各校園の年間計画に従って全ての教科を対象に「公開研究授業」として現在も継続しています。各教科とも授業参観結果から教科会議の方針に沿った授業展開ができてきているかの検証や改善の方向付け、長所を更に伸ばす工夫等の積極的な話し合いを重ねる取組みを継続しました。

D. 理系進学者増への取組み

一貫教育委員会（2005年度・2006年度）の第二部会の提言を受けて開始した理系進学者を増やす取組みは定着しており、中高生を理系進学につなげるための委員会の活動や全付属高校のSPP（サイエンス・パートナーシップ・プログラム）取得を目指す等の方針を継続し、学園オリンピック等の活動を中心に東海大学ならではの高大連携教育を実践しました。

中高生を中心に行っている「理科体験授業」もすっかり定着し、高等教育機関と初等中等教育機関が協力して中高生の理系進学者を増やすための具体的方策となっています。宿泊研修に発展させて引き継がれてきた現在の催しは、付属の中高生に対して早期に興味付けができるような工夫をして継続しました。同時開催している「学園オリンピック参加関係者のための学部説明会」とも全面協力し、更に中・高・大の連携が図れるように工夫しました。

また、2008年度から開催している「SPP・SSH（スーパーサイエンスハイスクール）成果発表会」は、当初は首都圏校を中心に実施しましたが、活動の成果を発表する場を生徒に与え、他校から受ける刺激や付属校同士の連携等が図れることから、全付属校を対象として年1回の定例開催としました。そのために2011年度は、開催場所を高輪校舎として、遠隔地の生徒も参加できるようWeb会議システム（オンラインミーティング）を導入しました。2012年度からは発表会の運営も各付属校持ち回りにしており、付属校全体の活動に進化しています。回を重ねるごとに生徒のプレゼンテーション能力の向上が実感でき、目覚ましい成長を遂げていることが手に取るようにわかる場となっており、学園が内外に誇れる取組みになりました。2014年度は付属翔洋高等学校・中等部が幹事校となり、代々木校舎で開催しました。参加校は7校で、参加生徒55名、教職員は41名、

ポスターセッション15テーマ，オーラルセッション11テーマの発表が行なわれました。

E. 教員研修計画

2014年度も，教員総合人事制度の目的である教員の資質向上と能力開発を更に充実させるため，人事考課制度の昇格システムと連動させ，研修対象者の研修成果をより高めるために，研修内容を精査し，全体研修やグループ研修を取り入れ，充実した教員研修を実施しました。

①資格等級別研修会

資格等級で昇格後3年間義務付け研修について3つの資格ごとに1回実施しました。上級職2種及び中級職1種は，代々木校舎で実施し，中級職2種は，東京会場・九州会場で実施しました。

②役職者研修会

新規校園長と副校長・教頭を対象に1回実施しました。分掌主任・室長・学年主任は，課題研修としました。

③考課者研修会

新規一次考課者を対象に1回実施しました。他の考課者は，必要に応じて各校園で実施することとしています。

④新規格付け予定者（中級職1・2種）講習会

共通内容の研修ビデオをWeb上で配信し，該当者が視聴の上，内容に関する課題レポートを実施しました。

⑤資格等級別課題論文

年2回実施しました。1回目は，各校園共通の資格等級別課題で，2回目は，校園ごとに取り組むべき課題を資格等級別に設定して実施しました。提出された課題論文については，面接等でフィードバックを行っています。

⑥新採用予定教員講習会

2015年度新採用予定の28名（附属甲府高等学校を含む）を対象に，望星学塾を会場に1泊2日で実施しました。

F. 各校園の学則定員，募集定員の見直しと適正教員数の配置

生徒募集の現状を見極め，必要に応じて各校園の「学則定員」及び「募集定員」を見直してきました。2014年度も，学校規模や特性に配慮した適正教員数により近付けるための人事異動を行いました。

今後も，各校園の適正教員数を割り出して専任・特任・非常勤を一定のバランスをとった配置にして経営基盤の安定化に努めます。

【その他初等中等教育機関における主な活動】

1. 学園オリンピック

学園オリンピックは東海大学独自の一貫教育を具現化した教育プログラムです。東京オリンピック開催を記念して1964年に始まった当初はスポーツ大会として行われていましたが、年々部門を充実させ、現在では国語部門、数学部門、理科部門、英語部門、芸術（造形）部門、芸術（音楽）部門、知的財産部門、ディベート部門、スポーツ大会の9部門が設けられています。対象となるのは本学園の附属高等学校と中等部で学ぶ全生徒で、毎年5月に芸術（音楽）部門、8月には高校生を対象にスポーツ大会がそれぞれ3日間、湘南校舎で開催されます。他の7部門は7月末から8月初旬の6日間、夏季セミナーとして孺恋高原研修センターで開催されます。学園オリンピックの目的は、学園の附属中高と東海大学の教員が一体となって生徒の才能を伸ばすことにあります。他者と競い、順位付けすることが狙いではなく、才能あふれる生徒たちが相互に刺激し合い、切磋琢磨しながら成長していく場になっていると同時に、優れた才能を早期に発見し、それを一層大きく育てるという重要な役割も担っています。

2014年度は芸術（音楽）部門に87名が応募し、二次審査を通過した22名が参加しました。スポーツ大会には9競技に2,131名の生徒が参加しました。また7部門の夏季セミナーには合計で1,535名が応募し、各部門の審査を通過した158名が参加しました。

スポーツ大会を除く文化部門の成績優秀者には東海大学、短期大学（部）への特別奨励入学の道も用意されています。教員と寝食をともにしながら学びの面白さを体験し、学校や学年の垣根を越えて友情を深めることができます。学園オリンピックは東海大学ならではの、極めて個性豊かな教育プログラムです。



2. 海外研修

本学園では東海大学ヨーロッパ学術センターや東海大学パシフィックセンターなど海外に様々な関係施設を有しており、グローバルな時代を担っていく若者のために、これらの施設を利用した海外研修制度を設けています。

毎年冬には、希望者を募って「附属高校生のためのヨーロッパ研修旅行」を実施しています。デンマーク、ドイツ、オーストリア、フランスなどのヨーロッパ各国を訪れ、デンマークでは東海大学の「建学の精神」の源流に触れ、ヨーロッパの文化を体感し幅広い人格形成を図っています。2014年度の第34回研修旅行には1年生から3年生までの附属高校生45名が参加しました。

また2000年度より「ハワイ中期留学制度」(Senior High School Intercultural Program : SHIP)を実施しています。高校3年生の1月～2月の52日間に渡ってハワイ東海インターナショナルカレッジに留学し、実践的な英会話力の養成はもちろんのこと、国際的視野の体得、自立心の確立を目指します。2014年度は46名の附属高校生がプログラムに参加し、この年代

にこそふさわしい貴重で有意義な体験を積んでいます。

3. 社会貢献

本学園では社会教育の一環として、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。例えば「東海大学建学の地・三保の松原美化運動」は1966年より活動を開始しています。自然美化と同時に人を思いやる気持ちを育むことを目的に、静岡地区にある本学園の各教育機関で学ぶ園児、児童、生徒、学生と教職員が地元自治体と協力しながら、静岡市清水区にある三保の松原とその周辺を清掃しており、第49回目を迎えた2014年度は1,800名が参加しました。

また、附属浦安高等学校・中等部の「世界一行きたい科学広場in浦安2014」、附属翔洋高等学校・中等部の「2014 Dream Science」、附属第三高等学校の「サイエンスフェスタinちの2014」、附属第五高等学校の「世界一行きたい科学広場in宗像2014」など、地域の産官学が連携して行う科学イベントを運営し、数千人規模の来場者が科学についての理解を深める機会作りに貢献しました。

さらに各地域の附属高等学校では、部活動の知識や技術を生かし、小学生や中学生を対象としたスポーツ教室や文化活動教室を開催するなど、地域に根ざした活動が展開されています。



3. その他の機関

【附属病院本部】

2014年度は、医学部附属4病院の診療連携・医療安全・経費削減を更に推進して、将来的な病院機能・役割等を確立し、医学部附属4病院連結での収支の黒字化を継続することを目的とし、附属病院（伊勢原）の医療収入実績を中心に、単年度黒字を継続達成することができました。

附属東京病院の収支改善、附属大磯病院の2012年度以来の黒字化、附属八王子病院の500床開床に向けた運営改善等を目標にした2014年度でありましたが、昨今の厳しい医療行政のもと、附属病院の医療機関係数減少、抗がん剤を中心とした高額医薬品による医療経費の増加、附属東京病院・附属大磯病院・附属八王子病院の病床稼働率の低迷の影響等、想定以上に医療収入が伸び悩み、また、一方で経費が増加したため、病院群の収支は2013年度を下回る結果となりました。

病院運営・医療収入に直結する医師不足対策として、学園の協力のもとに、年度途中の教員採用や非常勤医師の採用を積極的に進めました。看護師は看護師募集センターを中心に各病院と協力して病院群として要員計画数を達成できる人員を確保できました。臨床助手・臨床研修医の採用については厳しい状況が続いており、2015年度より臨床研修部事務室を従来の1部署から初期（臨床研修医）と後期（臨床助手）に組織を分け、積極的に募集及び離職防止等に取り組む改革を行い、対応していきます。

1. 医学部付属病院について

2014年度診療報酬改定は、これまでDPC（診断群分類包括評価）病院として他に先んじた政策をとってきた当院にとっても、大きな影響を与えるものとなりました。これまで前年度医療費を担保する目的で設定されていた暫定調整係数が機能評価係数に置き換えられ、結果として係数が低下するなど、2018年の全面撤廃に向けたより一層の機能強化が求められる内容であったこと、そして施設、診療体制についても新たな改革の必要性を痛感させられるものでした。

A. 運営・施策

①DPC制度のメリットは、出来高に加算される事ですが、前年と比較してその比率は大きく下がる結果となりました。急性期看護補助体制の充実に向けた看護補助体制加算の獲得については、加算獲得に向けた人員配置を推進しましたが、安定的な算定を確保するための人材確保を今後も推進する必要があります。2014年度からDPC評価係数として加えられた「後発医薬品係数」は、当院のこれまでの薬事業務の基本を大きく転換させるものでありましたが、医療現場の協力を得ながら概ね目標値達成に向けた移行計画は進んでいます。また、附属棟建築によって、第2診療センター診察室と処置室が拡大され、呼吸、循環器疾患患者への適切な対応ができるようになりました。心臓リハビリテーション室も効率的に運用でき、実施数は増加しています。施設拡大と増床を行った外来化学療法室は、保険制度上の枠組みが変わったことで一時的な実施件数の減少はありましたが、治療の外来化と新規治療薬の導入で実施件数は増え大幅に収入が増加しており、それに対応できる体制は整ったと言えます。

②2014年4月に「初診時特定療養費」の改定を行った影響もあり、外来患者数の伸びが鈍化しています。しかしながら、化学療法の外来化、検査、画像診断の確実な実施もあり、診療単価は2013年度と比較して増加しました。当院のリニューアルのコンセプトであった検査行為の外来化と早期診断、患者の負担軽減は確実に進んでいます。

③外来再編は2015年度の継続的課題であり、進めるべき手法を検討しています。2015年5月のシステムリプレイスは、基本としてフルオーダー化となることから、今後の外来診療における患者導線の変化、診療の効率化などに注目していきます。

B. 医療連携の推進

①4月以降、医療連携室にて受診前の予約取得を積極的に進め、地域医療機関から持参する画像データを診療前の閲覧を可能にしたことで、地域との効率的な連携関係が確立できました。これにより、紹介率、逆紹介率とも目標値を達成しました。

②診療報酬改定により地域医療機関の病床再編成が行われ、回復期病床、療養型病床などに転換する病床数が明らかになりました。各医療機関とは連絡会を始めとする担当者会議が設置されました。当院と地域医療機関の役割を明確にすることで、各医療機関が自院の機能を活かせる連携体制作りを行いました。

C. 医療安全の徹底

①2014年度から発足した中央診療部では、侵襲性の高い医療行為が行われる部署での規約の確認，実施される行為の手順などの確認，整備が行われました。

②2013年度から始まった薬剤師病棟配置によって，入院患者に対する服薬指導等を通じて投薬，注射に関する医師，看護師の業務負荷が軽減しました。今後，医薬品の自動払い出し装置の導入により，更なる安全性の向上が期待されます。

2. 医学部附属東京病院について

2014年度は，中期目標として掲げた収支均衡の達成に向け，経営収支の改善に取り組んできました。具体的には医療収入の根幹となる患者増加対策，患者サービスの向上，職場環境の改善，経費削減を柱とし，ヒアリング等により教職員からの意見を吸い上げるとともに，運営目標を明示するなど，当院の特徴に見合った効率的な改善を施してきました。その結果，目標値には及ばず課題は残るものの，医療収入においては2013年度，2012年度を上回る結果となりました。

A. 医療連携

セミナー開催，診療所訪問による連携強化を実施しました。

B. 環境改善

①来院患者対応として，看護職員を玄関に配置しました。

②眼科，ナースステーション，エレベーターの整備，外来・病棟ウォーターサーバー設置を行いました。

③年末年始の患者対応を積極的に行いました。

④医療機器損耗更新を行いました。

C. 経費削減

①病院方針として，費用対効果を前提とする効率的な経費の執行を行いました。

②医療経費においては，予算を下回ることができましたが，光熱水費，委託費等の削減・見直しにおいては2015年度へ向けての課題が残ります。課題解決に向けては職員一人一人に意識改革を促す施策も必要不可欠です。

3. 医学部附属大磯病院について

2014年度は「収支の黒字化，収支均衡」を目指しましたが，2013年度に引き続き1病棟休床により，入院患者数が当初計画を下回りました。外来収入は堅調に伸びているので，今後，病床の高稼働運用が最重要課題となります。

A. 運営・施策

①医師数により配分される二次救急指定日は2013年度より減少しましたが，2014年7

月より急性心疾患を 24 時間 365 日対応する体制を整えたこともあり、救急搬送件数は 2013 年度数を維持しています。

②一昨年増設した手術室を有効活用するため、手術待ち患者数の多い眼科を 2015 年 1 月より月曜日を外来休診日として手術実施日に充てたことにより、眼科の入院収入は上昇してきています。

③中郡医師会及び近隣医療機関との連携強化、市民公開講座の定期開催などにより、紹介率が 50 パーセントを超え、外来診療単価の増加につながっています。

④医師及び看護師不足対策として、医師事務作業補助者を倍増させて外来診察室で補助業務を行うとともに、薬剤師の病棟配置を実施して、医療従事者の負担軽減・役割分担に取り組みました。

B. 看護師の確保・離職防止対策

①近隣の看護学校を中心とした募集活動、実習生の受入れ拡大、オープンホスピタルの実施など、2015 年度の採用目標数値を上回りました。

②離職防止対策として、業務分担・役割分担の推進、事務部と新任看護師との懇話会などにより、離職率は目標値を維持できました。

C. 医療安全の徹底

付属大磯病院全体としてリスク管理の徹底を図り、医療事故防止、感染防止など医療安全の強化に努めました。

D. 経費の抑制

緊急対応修繕等はあったものの、費用対効果を念頭に各部署協力のもと支出減につながる対応に努めました。また、教職員全員で光熱水費抑制など省エネルギー活動を推進しました。

4. 医学部付属八王子病院について

2014 年度 12 月以降の病床稼働率は高稼働となりましたが、11 月までの病床稼働が低下したため、医療収入は未達となりました。また、病院群においても医師が不足している状況も、医療収入が減少した要因となりました。

A. 院外薬局開設に伴う医療経費率の抑制

諸事情により院外薬局の開局が遅れ、医療経費率は目標を若干下回りました。院外薬局がオープンした 6 月以降の医療経費率は目標を上回っており、開局の遅れは、外的要因であるため、目標達成と評価しても良いと考えます。

B. 技術職員の完全二交替制勤務への移行

診療放射線技師と臨床検査技師は予定どおり 2015 年 1 月から完全二交替制勤務に移行しました。薬剤師は諸事情により約 2 か月遅れの 2 月末日から完全二交替制勤務に移行し、技術職員の勤務環境の整備を推進しました。

C. 500 床開床のための看護職員の要員確保

2015 年 4 月 1 日の看護要員数の目標数は、2013 年度並みでした。また、医師についても要望数に対し、未達であったため、500 床開床は 1 年先送りとしました。

D. 医療安全の徹底

①新任教職員に対し、年度当初に事例報告を行うなど医療安全に関する時間を設け、危機管理意識を高めました。また、院内感染防止対策として担当者による定期的なラウンドを行うなど医療安全対策の強化を図りました。

②医薬安全管理者を中心に麻薬等の管理体制強化が必要な医薬品の安全管理を行いました。

③医療機器の故障・修繕状況の日報を医療機器安全管理責任者・医療安全管理者・事務課で回覧を行うことで情報を共有し、徹底した医療機器の安全管理に努めました。

4. 社会との連携強化

1. エクステンションセンターについて

2014 年度は、学内の学部・学科・他部署等との「連携」を深めた講座の開講に努めました。その中でも中高年の健康管理・維持に寄与できる講座として健康科学部・医学部と連携し「長寿社会を健やかに生きる」・「漢方講座」をメインテーマに掲げ、それぞれ半期 2 回ずつ実学的なテーマを設けて実施しました。また、文学部北欧学科と連携し新規に「フィンランド語」を開講したところ、反響が高く、受講希望者多数のため 1 クラス増設して実施しました。スウェーデン語も同様に反響があり 1 クラス増設して実施しました。

なお、2014 年度より地元高輪地区への地域貢献講座として「高輪まちづくり塾」を開講しています。これは地元高輪地区の「まちづくり」について、区民が主体となって積極的に考え行動していくことを目標とし、そのための情報（知識）を講座として提供する内容であり、この講座をきっかけに大学と地域住民との交流が深められる良い機会ともなっています。

2014 年度における受講状況の実績は、147 講座を開講し、受講者は 2,465 名でした。内訳は、語学系 66 講座 845 名、文学・歴史系 12 講座 324 名、芸術系 13 講座 173 名、教養系 9 講座 85 名、健康・ビジネス系 16 講座 185 名、地域講座 5 講座 306 名、フィールドワーク 6 講座 102 名、子供の情操教育 10 講座 108 名、無料の講座 4 講座 233 名、首都圏付属高校生対象の TOEFL 講座 12 名、ブルガリア・ショート・プログラム 1 講座 10 名、クール・ジャパン 1 講座 18 名、高輪まちづくり塾 2 講座 44 名、東京都産業労働局からの大学等委託訓練

1 講座 20 名でした。

2. 地域との学術交流活動について

湘南校舎においては、包括的学術交流協定を結んでいる秦野市、平塚市、伊勢原市及び大磯町とは、それぞれ連携協定の締結期間は異なるものの、3市1町との協力関係は、長年の交流実績を踏まえ、行政だけに留まらず、市内の小中学校・県立高校、商工会議所及び各種市民団体などとの交流も盛んに行い、2013 年度にも増して充実した協力体制を構築しました。

長野県茅野市、愛媛県西条市及び石川県能登町の3つの自治体とは、当該地域には大学の教育機関は設置されていませんが地域連携協定を締結しており、大学と連携した地域づくり事業を中心に交流を継続して行いました。

また、代々木校舎、高輪校舎、清水校舎、伊勢原校舎、熊本校舎、阿蘇校舎及び札幌校舎の各校舎においても、各種公開講座を開催し、自治体との共同研究及び委員派遣等の事業を行いました。

さらに2014 年度には、高輪校舎の所在する東京都港区、海洋学部との接点の多い沖縄県石垣市、北海道キャンパスと地域貢献活動を行ってきた旭川市、代々木校舎の所在する渋谷区、また、都道府県では初となる神奈川県との間においても包括協定を締結しました。また、静岡市とは交流事業に関する協定に代わり、包括協定を締結しました。

学生の地域連携活動としては、チャレンジセンタープロジェクト活動があり、本学が実践している特色ある人材育成教育の一つとなっています。これらの活動の中には、地域の活性化を目指し、各キャンパスにおいて自治体及び近隣住民を巻き込んだ活動が展開されており、これらの活動を更に充実させることにより、今まで以上に地域との良好な関係を構築しました。

5. 教育環境整備の推進

1. 中長期計画に基づく教育施設・設備等について

2014 年度計画した教育施設・設備整備の実施した結果を報告します。

A. 継続工事

①湘南校舎（仮称）19 号館新築設計

基本設計を終了し実施設計を行っており、2015 年7 月頃に実施設計を終了し着工予定です。

②湘南校舎高間原第1 グラウンド人工芝敷設整備工事

2014 年4 月に工事完了し、運用開始しています。

③湘南校舎ラグビー場人工芝敷設替え整備工事

2014 年4 月に工事完了し、運用開始しています。

④伊勢原校舎（仮称）松前記念講堂新築工事

2015 年3 月に竣工し、運用開始しています。

⑤札幌校舎第二体育館（仮称）建設工事

建物は、2015年4月より運用開始しましたが、雪のため外構工事及び引渡しは4月末となりました。

⑥付属相模高等学校野球場整備工事（第2期）

第2期工事として一塁側防球ネット及び夜間照明の整備を2015年3月に完了しました。

⑦付属第四高等学校校舎建替え工事

実施設計を完了させ、2014年11月に着工し、現在、施工中です。

⑧東海大学パシフィックセンター移転計画に伴う建物新築工事

新キャンパスの建設も完了し、2015年4月より運用開始しています。

B. 新設他工事

①湘南校舎5号館改修工事

2014年10月に改修工事を完了しました。

②湘南校舎キャンパスマスタープラン

2014年9月に湘南キャンパスマスタープランの第一弾を作成しました。

③熊本校舎2号館耐震補強設計

2014年10月に耐震補強設計を完了しました。

④付属浦安高等学校体育館外壁修繕工事

2014年9月に修繕工事を完了しました。

⑤認定こども園対応工事（付属幼稚園，付属本田記念幼稚園，付属自由ヶ丘幼稚園，付属かもめ幼稚園）

各幼稚園とも工事が完了し、2015年4月より運用開始しています。

6. 関連機関における活動情報

関連機関における諸活動の詳細につきましては、各機関のホームページをご覧ください。

1. 直轄機関

望星学塾 <http://www.tokai.ac.jp/bosei/>

2. 高等教育機関

東海大学 <http://www.u-tokai.ac.jp/>

東海大学短期大学部 <http://www.sjc.u-tokai.ac.jp/>

東海大学医療技術短期大学 <http://www.nmt.u-tokai.ac.jp/>

東海大学福岡短期大学 <http://www.ftokai-u.ac.jp/>

ハワイ東海インターナショナルカレッジ（別法人） <http://www.hawaii-tokai.edu/>

3. 初等中等教育機関

東海大学附属浦安高等学校 <http://www.urayasu.tokai.ed.jp/>

東海大学附属相模高等学校 <http://www.sagami.tokai.ed.jp/>

東海大学附属高輪台高等学校 <http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>

東海大学附属翔洋高等学校 <http://www.shoyo.tokai.ed.jp/>

(2015年4月東海大学附属静岡翔洋高等学校に名称変更)

東海大学附属熊本星翔高等学校 <http://www.seisho.tokai.ed.jp/>

東海大学附属第三高等学校 <http://www.daisan.tokai.ed.jp/tokai3/>

東海大学附属第四高等学校 <http://daiyon.tokai.ed.jp/>

東海大学附属第五高等学校 <http://www.tokai5.ed.jp/>

東海大学附属仰星高等学校 <http://www.tokai.ed.jp/gyosei/>

東海大学附属望洋高等学校 <http://www.boyo.tokai.ed.jp/>

東海大学附属望星高等学校 <http://www.bosei.tokai.ed.jp/>

東海大学附属甲府高等学校 (別法人) <http://www.kofu.tokai.ed.jp/>

東海大学山形高等学校 (別法人) <http://www.ymgt-tokai.ed.jp/>

東海大学菅生高等学校 (別法人) <http://www.sugao.ed.jp/hs/>

東海大学附属浦安高等学校中等部 <http://www.urayasu.tokai.ed.jp/>

東海大学附属相模高等学校中等部 <http://www.sagami.tokai.ed.jp/>

東海大学附属高輪台高等学校中等部 <http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>

東海大学附属翔洋高等学校中等部 <http://www.shoyo.tokai.ed.jp/>

(2015年4月東海大学附属静岡翔洋高等学校中等部に名称変更)

東海大学附属第四高等学校中等部 <http://daiyon.tokai.ed.jp/>

東海大学附属仰星高等学校中等部 <http://www.tokai.ed.jp/gyosei/>

東海大学菅生高等学校中等部 (別法人) <http://www.sugao.ed.jp/jhs/>

東海大学附属小学校 <http://fuzoku-you-syo-tokai.ed.jp/syo/>

東海大学附属幼稚園 <http://fuzoku-you-syo-tokai.ed.jp/you/>

(2015年4月認定こども園 東海大学附属幼稚園に移行)

東海大学附属本田記念幼稚園 <http://www.honda.u-tokai.ac.jp/>

(2015年4月認定こども園 東海大学附属本田記念幼稚園に移行)

東海大学附属自由ヶ丘幼稚園 <http://www.kinder.ftokai-u.ac.jp/>

東海大学附属かもめ幼稚園 <http://kamome.tokai.ed.jp/>

(2015年4月認定こども園 東海大学附属かもめ幼稚園に移行)

4. 附属病院

東海大学医学部附属病院 <http://www.fuzoku-hosp.tokai.ac.jp/>

東海大学医学部附属東京病院 <http://www.u-tokai.ac.jp/hospital/tokyo/hp/>

東海大学医学部附属大磯病院 <http://www.tokai.ac.jp/oisohosp/>

東海大学医学部附属八王子病院 <http://www.hachioji-hosp.tokai.ac.jp/index.php>

6. 監事による監査報告書

監査報告書

学校法人 東海大学
理事会 御中
評議員会 御中

私たち学校法人東海大学の監事は、私立学校法第37条第3項及び寄付行為第13条の2の定めに基づき、学校法人東海大学の平成26年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）の業務及び財産の状況について監査いたしました。

監査の方法は、理事会及び評議員会に出席するほか、理事から業務の報告を聴取し重要な決裁書類等を閲覧し、主要な関係部署において業務及び財産の状況を調査し、計算書類につき検討を加えました。

監査の結果、学校法人東海大学の業務に関する決定及び執行は適切であり、計算書類すなわち、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄付行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

平成27年5月20日

学校法人 東海大学

監事

淵上 育之



監事

木本 雄一



監事

安達 建夫

